

平成21年度(1)

# 県政モニター アンケート報告書

テーマ「愛知県の行財政改革」  
「青少年の健全育成」

平成21年 9 月

# も く じ

調査の概要 .....	1
-------------	---

## 調査結果

### 愛知県の行財政改革

1 行財政改革への関心 .....	3
2 これまでの取組の評価 .....	5
3 県の財政状況 .....	7
4 行政サービスへの影響 .....	8
5 力を入れていくべき行政分野 .....	9
6 重点を置くべき取組事項 .....	11
7 県職員のイメージ .....	13
8 県職員に求められる能力・資質 .....	14
9 自由意見 .....	15

### 青少年の健全育成

1 現在の青少年像 .....	24
2 青少年とのかかわり方 .....	28
3 青少年の非行等問題行動の防止 .....	33
4 行政への要望 .....	36
5 自由意見 .....	38

質問と回答 .....	45
-------------	----

# 調査の概要

## 調査のテーマ

### 愛知県の行財政改革

#### (調査の趣旨)

愛知県では、これまで「愛知県第三次行革大綱」(平成10年12月)や「改訂愛知県第三次行革大綱」(平成13年12月)、そして「あいち行革大綱2005」(平成17年2月)などに基づき、継続して行財政改革に取り組んできました。

しかしながら、100年に一度とも言われる世界的な景気後退に伴い、本県の財政は未曾有の危機的状況に直面しており、財政健全化に向けた取組を一層確実に進めていかなければなりません。

また、地方分権改革の推進や、組織の再生・活性化などの重要課題にも対応するため、さらなる改革に取り組むことが必要であると考え、新たな行革大綱を策定することといたしました。

そこで、新たな行革大綱を策定するに当たり、県民の皆様の意見を反映させる取組の一つとして、「行財政改革」をテーマに県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

### 青少年の健全育成

#### (調査の趣旨)

21世紀を担う青少年が夢に向かって果敢に挑戦しながら、心豊かにたくましく成長し、社会的に自立していくことは私たちすべての願いです。

しかしながら、児童虐待の増加、薬物の乱用や非行の多発、不登校・ひきこもりの問題、不安定な就労状態にある若者やニートと呼ばれる若者の数が高水準で推移するなど、青少年をめぐる問題は厳しい状況となっています。

こうした中で、青少年問題を社会全体の問題として受け止め、家庭、学校、職場そして地域社会が一体となって、青少年が健全に育つ環境づくりに努めることが求められています。

県では、平成13年3月に「あいちの青少年育成計画21」(10ヶ年計画)を策定し、各種の施策を展開していますが、近年の状況の変化に対応した新たな青少年育成計画を今年度中に策定することとしています。

そこで、新たな計画づくりの参考とするため、現在の青少年像や青少年とのかかわり方、非行防止、県政に対する意向等について県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

## 調査対象

県政モニター 500人 (平成21年5月29日現在)

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	500人	100.0%	154人	190人	156人	
性 別	男 性	243	48.6	74	93	76
	女 性	257	51.4	80	97	80
年 代 別	20 代	74	14.8	23	30	21
	30 代	106	21.0	31	42	33
	40 代	88	17.8	23	32	33
	50 代	86	17.2	25	30	31
	60 代 以上	146	29.2	52	56	38

## 調査期間

平成21年5月29日から平成21年6月14日まで

## 調査方法

郵送・インターネット (選択)

## 回答者数

494人 (回収率98.8%)

## 記号・符号・用語の説明

- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M.T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

# 調査結果

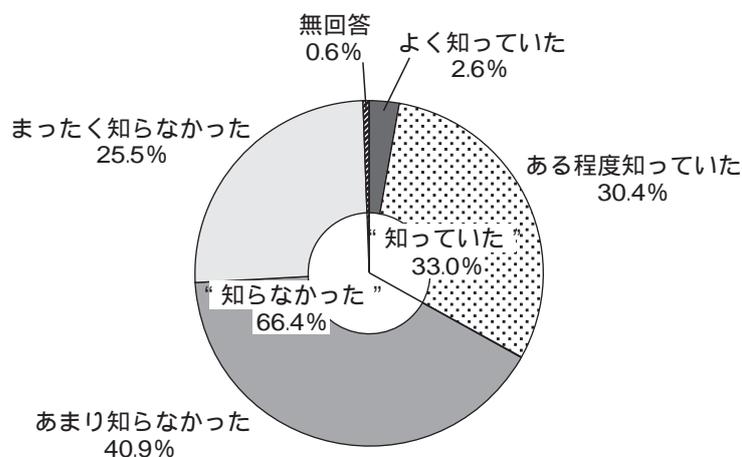
## 愛知県の行財政改革

### 1 行財政改革への関心

問1 県では、現行の「あいち行革大綱2005」を含め、数次にわたる行革大綱に基づき、事務事業の見直し、組織・機構の再編、職員定数の削減など、不断の行財政改革の取組を進めてきました。

あなたは、県がこうした行財政改革に取り組んでいることをご存じでしたか。(回答は1つ)

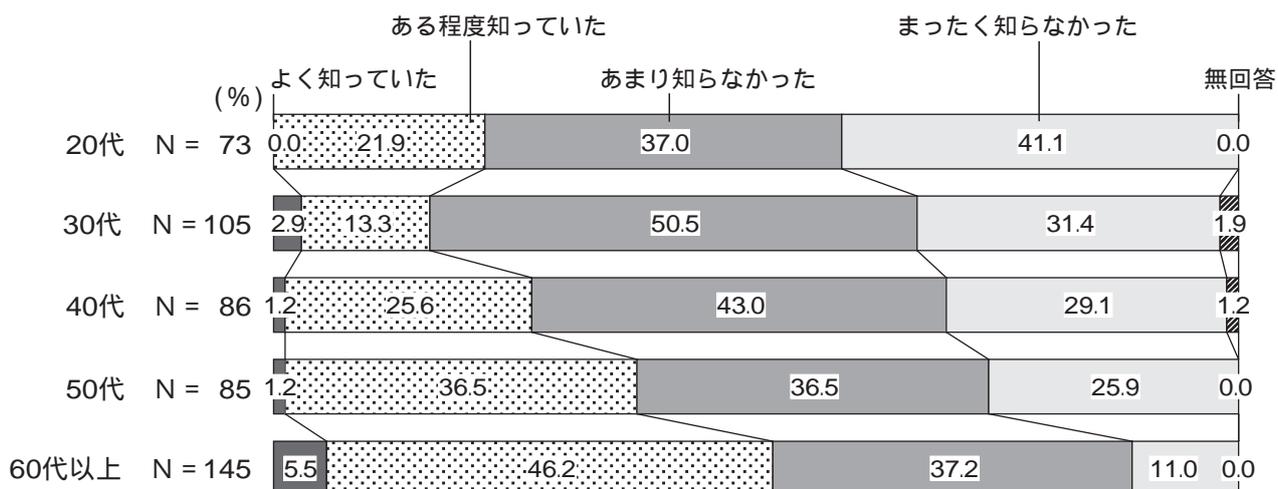
N = 494



愛知県が行財政改革に取り組んでいることを知っているか尋ねたところ、「よく知っていた」が2.6%、「ある程度知っていた」が30.4%で、これらを合わせた“知っていた”が33.0%に対し、「あまり知らなかった」が40.9%、「まったく知らなかった」が25.5%で、これらを合わせた“知らなかった”は66.4%となっている。

年代別に見ると“知っていた”と答えた人の割合は60代以上で高く、30代、20代で低くなっている。

(年代別)



県の行財政改革の取組を“知っていた”と回答した方は、全体の33%であり、また、年代別に見ると、年齢の若い方ほどこの割合は低い傾向にあります。

各世代にわたり広く県の行財政改革の取組をご理解いただくため、取組状況の公表など、さらに積極的に情報を発信していく必要があると考えます。

(総務部総務課)

## 2 これまでの取組の評価

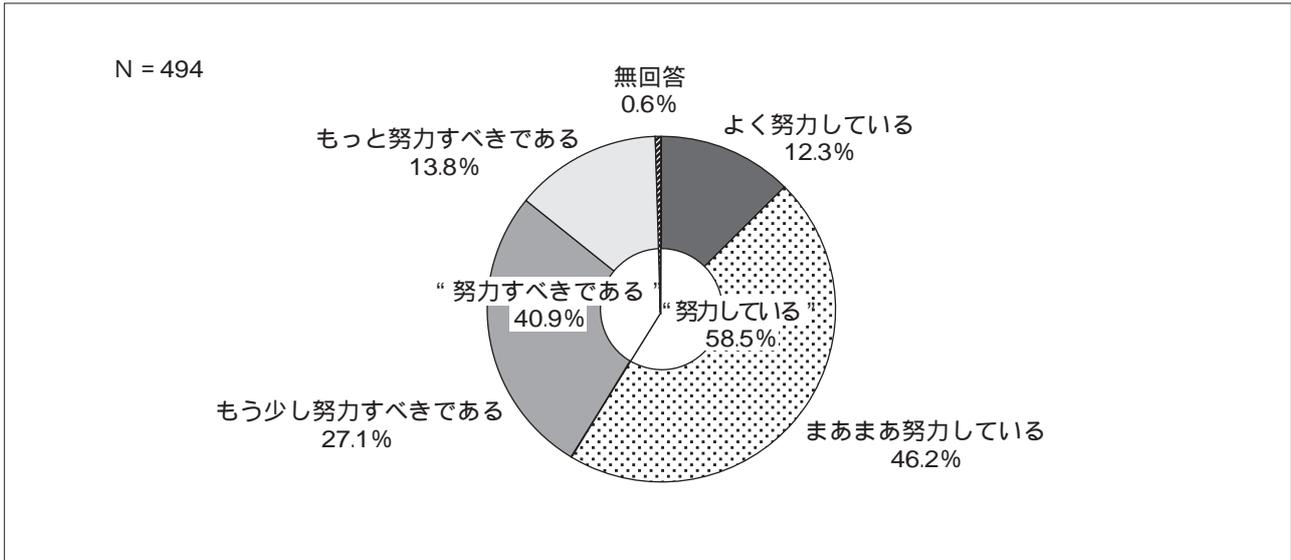
問2 県では、「あいち行革大綱2005」において、以下のような取組実績を上げてきました。

あなたは、こうした県の行財政改革の取組状況について、どう思われますか。(回答は1つ)

< あいち行革大綱2005の主な取組事項 >

- ・分権時代に相応しい県と市町村との関係の構築  
(市町村への事務権限の移譲数772事務 (21年4月1日現在))
- ・民間活力の活用  
(環境調査分析や県立病院での看護補助などの業務を民間に委託、職員研修や旅券申請窓口などの業務で市場化テストモデル事業を実施)
- ・NPOなど県民との協働  
(町内会の交通安全教室をモデル事業として委託)
- ・組織・機構の再編  
(18年度に政策調整機能の強化を始め本庁組織を見直し、20年度に県民ニーズに対応した機能の強化を始め地方機関を見直し)
- ・定員や給与の適正管理  
(知事部局等と教育の事務部門の17～21年度職員定数の削減数1,331人、18年度に給料表構造改革など給与制度を抜本的に見直し)
- ・人材の育成と活用  
(17年度に県職員育成の基本方針「あいち人材育成ビジョン」を策定)
- ・県の仕事の見直し  
(県の全ての事務事業を見直し、各年度30億円以上を削減)
- ・公の施設の見直しと指定管理者制度の活用  
(17～21年度に公の施設の廃止・民営化など22施設、18年4月指定管理者制度を導入し、16施設と県営住宅84団地で公募を実施)  
公の施設：県民に利用してもらうために県が設置する施設  
指定管理者制度：民間を含む事業者が県の指定を受けて公の施設管理を代行
- ・財政の健全化に向けた取組  
(県債の新規発行額の抑制、県有財産の売却など自主財源の確保)
- ・行革効果額

年 度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
行革効果額	207億円	189億円	312億円	87億円	478億円



県の行財政改革の取組状況を尋ねたところ、「よく努力している」が12.3%、「まあまあ努力している」が46.2%で、これらを合わせた“努力している”が58.5%に対し、「もう少し努力すべきである」が27.1%、「もっと努力すべきである」が13.8%で、これらを合わせた“努力すべきである”は40.9%となっている。

「あいち行革大綱2005」の取組状況について、半数以上の方に“努力している”と評価をしていただいた一方、“努力すべき”と回答された方も約4割いらっしゃいます。

今後とも、さらなる努力が必要であると考えます。

(総務部総務課)

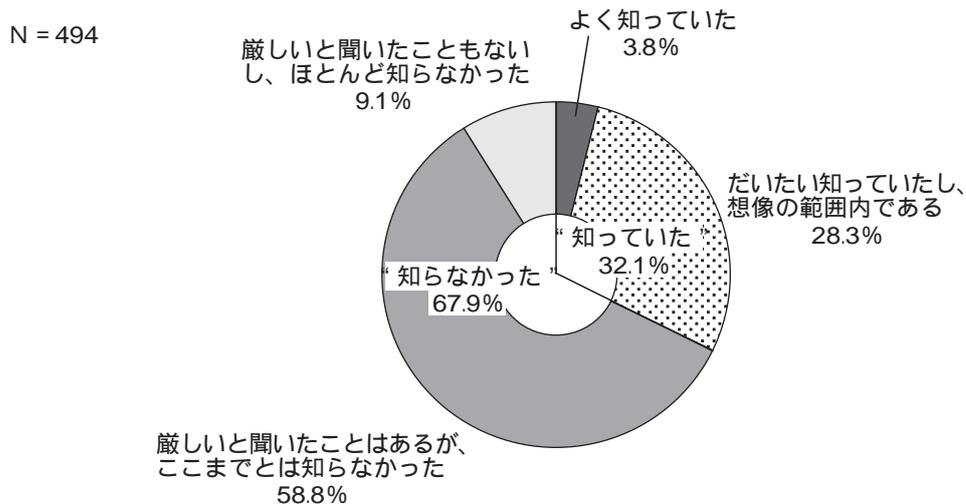
### 3 県の財政状況

問3 県が積極的に行財政改革の取組を進めているのは、財政が依然として大変厳しい状況にあるためです。

県の財政（21年度当初予算）を1か月の家計に例えると次のような状況になりますが、あなたは、県の財政がこのような状況になっていることをご存知でしたか。（回答は1つ）

世帯の月収を約40万円とした場合、毎月の支出約56万円をまかなうには、約16万円不足しています。親から仕送りを約7万円受けても、約9万円借金しなければなりません。

収入 約40万円	}	月収	約40万円：県税など	}
支出 約56万円		家計費	約41万円：一般歳出	
		家族等への仕送り	約8万円：補助金・貸付金など	
		ローン返済	約7万円：公債費	
不足分 約16万円	}	親からの仕送り	約7万円：国庫支出金など	}
		借金	約9万円：県債	



県の財政状況が大変厳しい状況にあることを知っているかを尋ねたところ、「よく知っていた」が3.8%、「だいたい知っていたし、想像の範囲内である」が28.3%で、これらを合わせた“知っていた”が32.1%に対し、「厳しいと聞いたことはあるが、ここまでとは知らなかった」が58.8%、「厳しいと聞いたこともないし、ほとんど知らなかった」が9.1%で、これらを合わせた“知らない”は67.9%となっている。

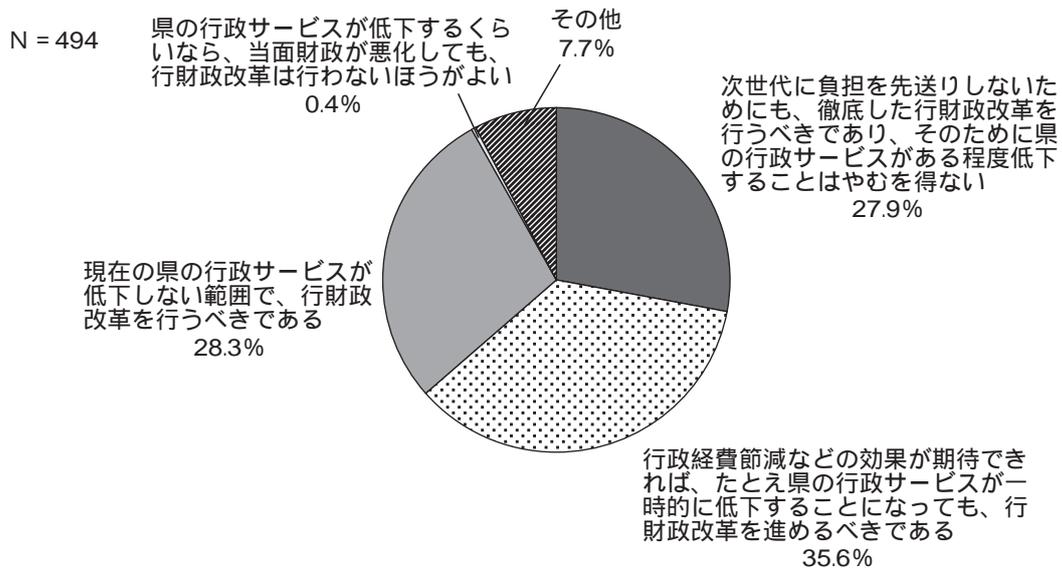
県の厳しい財政状況について、“知らない”と回答した方の割合は、全体の約3分の2となっています。

今後とも、県の厳しい財政状況について、より一層分かりやすく県民の皆様にお知らせし、十分にご理解をいただきながら、行財政改革を推進していく必要があると考えます。（総務部総務課）

## 4 行政サービスへの影響

問4 厳しい財政状況を踏まえ、県では、これからも一層積極的に行財政改革の取組を進めていかなければならないと考えております。

あなたは、県はどのように行財政改革を進めていくべきと思われますか。もっとも近いものを選んでください。(回答は1つ)



県の行財政改革の進め方について尋ねたところ、「次世代に負担を先送りしないためにも、徹底した行財政改革を行うべきであり、そのために県の行政サービスがある程度低下することはやむを得ない」が27.9%、「行政経費節減などの効果が期待できれば、たとえ県の行政サービスが一時的に低下することになっても、行財政改革を進めるべきである」が35.6%で、これらを合わせた“行政サービスの低下もやむを得ない”は63.5%となっている。

厳しい財政状況の下で、一層積極的に行財政改革の取組を進めるのであれば、“行政サービスの低下もやむを得ない”との回答が全体の6割以上となっています。

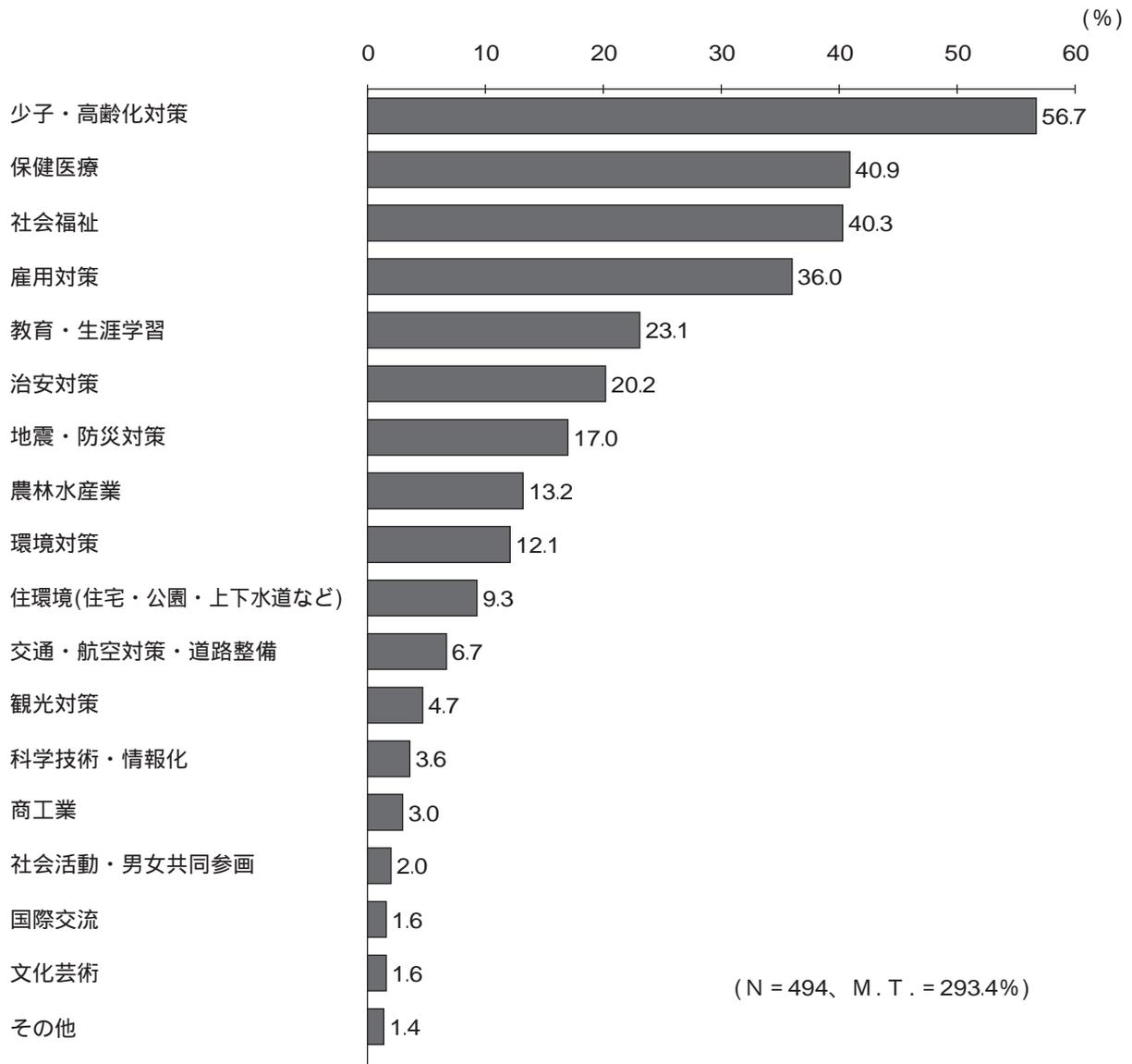
しかしながら、行財政改革を進めるに当たっては、県民の皆様への影響を最小限にとどめられるよう努力していく必要があると考えます。

(総務部総務課)

## 5 力を入れていくべき行政分野

問5 県では、行財政改革を進めながらも、県政の各分野において、県民ニーズや地域課題を踏まえた取組を推進していかねばならないと考えております。

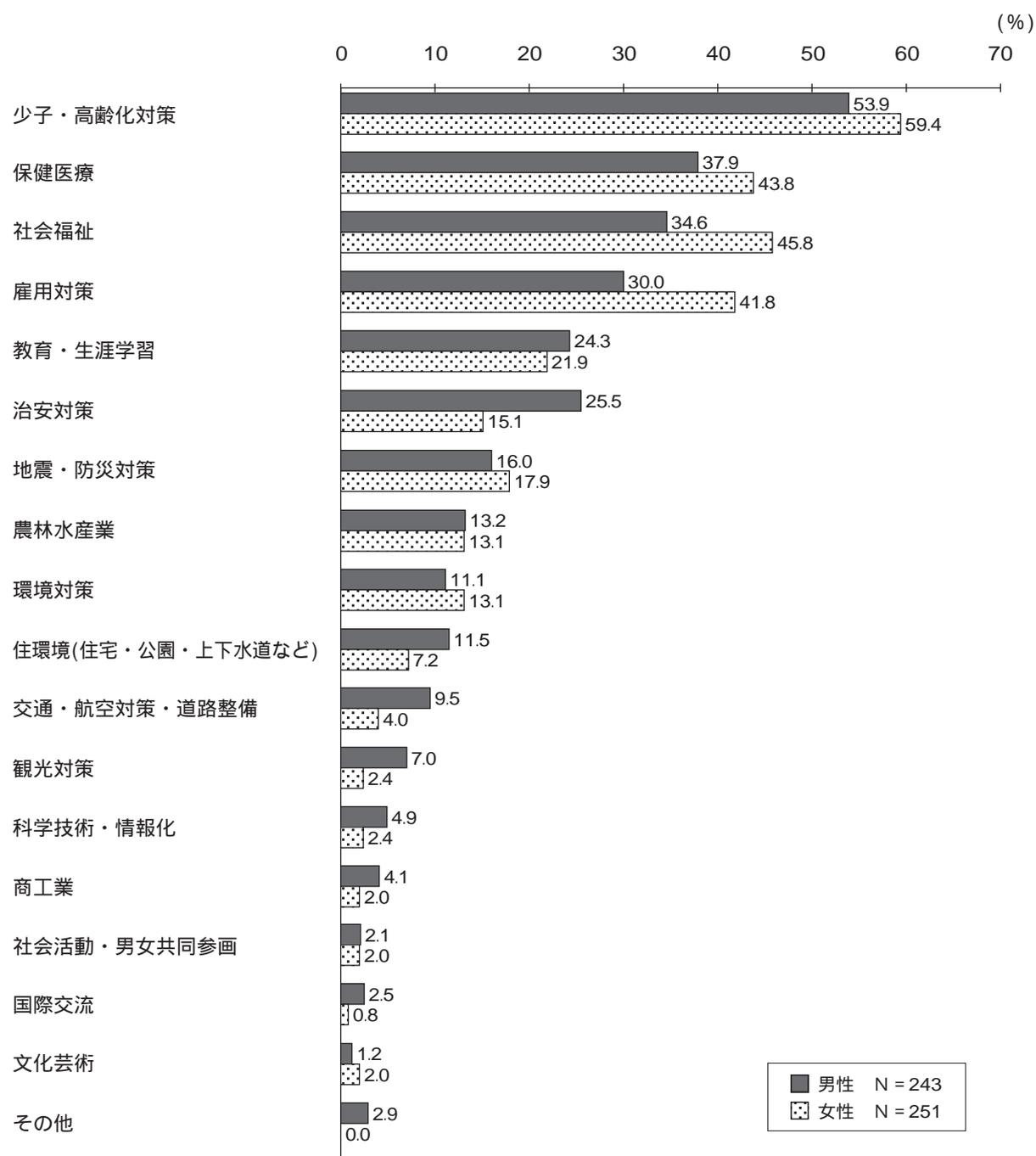
あなたは、県は今後どのような行政分野に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から選んでください。(回答は3つ以内)



県は今後どのような行政分野に力を入れていくべきかを尋ねたところ、「少子・高齢化対策」が56.7%、「保健医療」が40.9%、「社会福祉」が40.3%、「雇用対策」が36.0%などとなっている。

男女別にみると、上位4分野を選んだ人の割合は、女性がより高くなっている。

(男女別)



県が力を入れていくべき分野として、「少子・高齢化対策」、「保健医療」、「社会福祉」、「雇用対策」という県民生活に身近な分野が回答の上位を占めています。

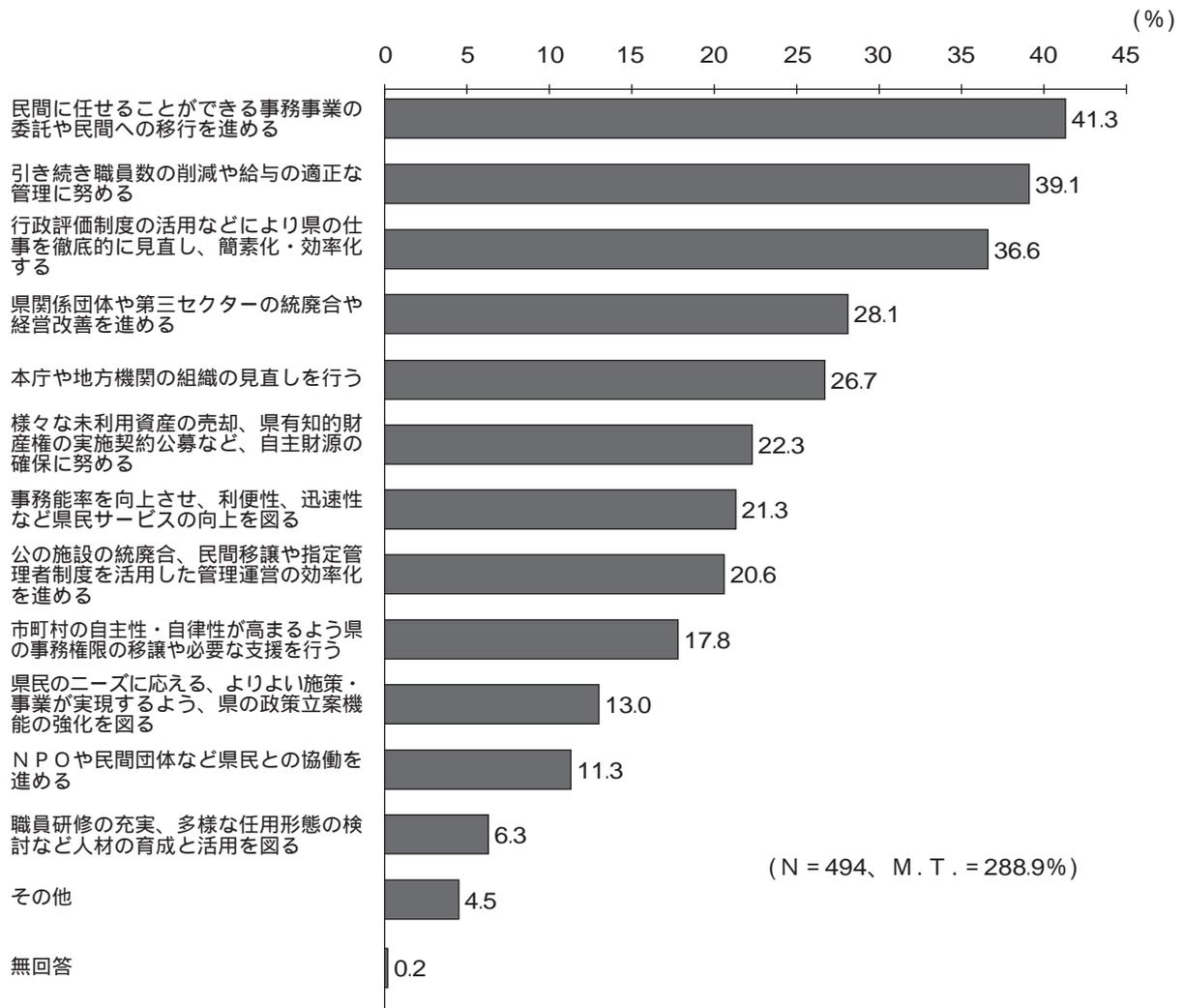
これらはいずれも、長期的な傾向あるいは近年の景気の急激な減速によって県に対するニーズが押し上げられている分野であり、限られた財源、人材で、そのようなニーズの変化・逡増に対応していくためにも、行財政改革に努力する必要があると考えます。

(総務部総務課)

## 6 重点を置くべき取組事項

問6 あなたは、県はどのような点に重点を置いて行財政改革に取り組むべきと思われますか。

(回答は3つ以内)

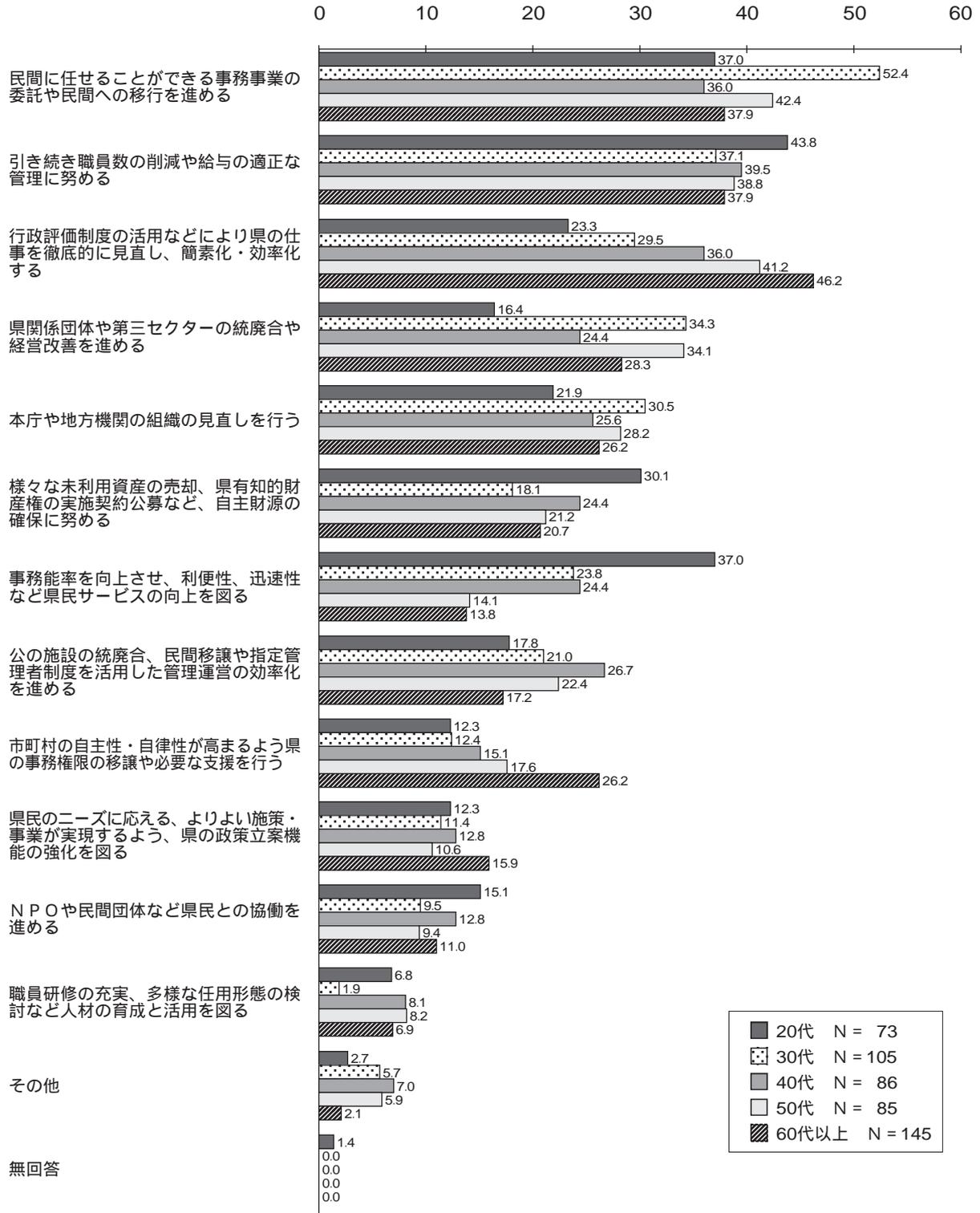


県がどのような点に重点を置いて行財政改革に取り組むべきかを尋ねたところ、「民間に任せることができる事務事業の委託や民間への移行を進める」が41.3%、「引き続き職員数の削減や給与の適正な管理に努める」が39.1%、「行政評価制度の活用などにより県の仕事を徹底的に見直し、簡素化・効率化する」が36.6%などとなっている。

年齢別にみると、30代と50代で「民間に任せることができる事務事業の委託や民間への移行を進める」の割合が、20代と40代で「引き続き職員数の削減や給与の適正な管理に努める」の割合が、60代以上で「行政評価制度の活用などにより県の仕事を徹底的に見直し、簡素化・効率化する」の割合がそれぞれ高くなっている。

(年代別)

(%)



今後の重点的な取組としては、「事務事業の民間委託等」、「職員数の削減や給与の適正な管理」、「県の仕事の簡素化・効率化」、「県関係団体や第三セクターの統廃合や経営改善」が回答の上位を占めており、平成19年度に実施した県政モニター調査と同様の結果となりました。

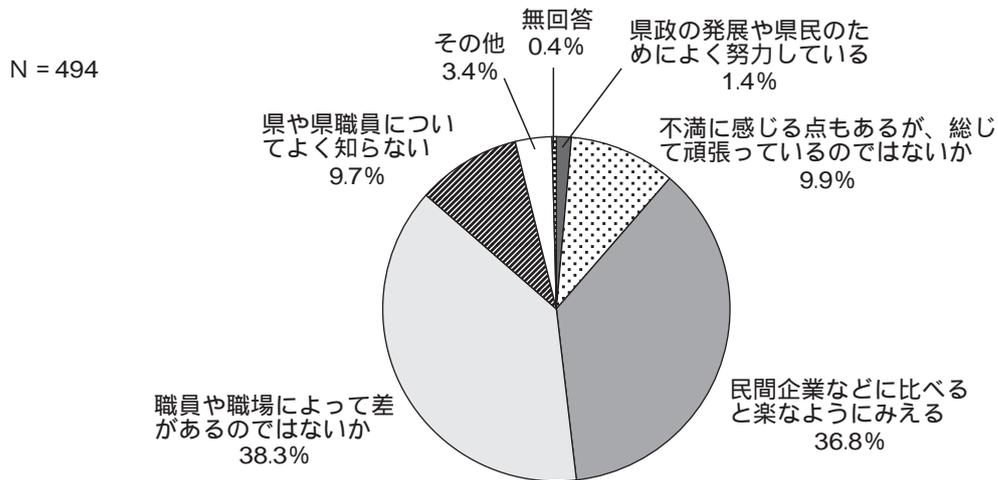
財政健全化に向けて、県の事業や人員のスリム化など、歳出削減に直接つながる取組に力を入れるべきといった県民の皆様の意見がうかがえます。

(総務部総務課)

## 7 県職員のイメージ

問7 私たち県職員は、県民の皆様の福祉向上と県政の発展のため、それぞれの持ち場において、全力で仕事に取り組んでいると考えております。

あなたは、県職員の日頃の仕事ぶりについて、どのようなイメージをもっておられますか。もっとも近いものを選んでください。(回答は1つ)



県職員の日ごろの仕事ぶりについてのイメージを尋ねたところ、「県政の発展や県民のためによく努力している」が1.4%、「不満を感じる点もあるが、総じて頑張っているのではないかと」が9.9%であるのに対し、「民間企業などに比べると楽なように見える」が36.8%、「職員や職場によって差があるのではないかと」が38.3%などとなっている。

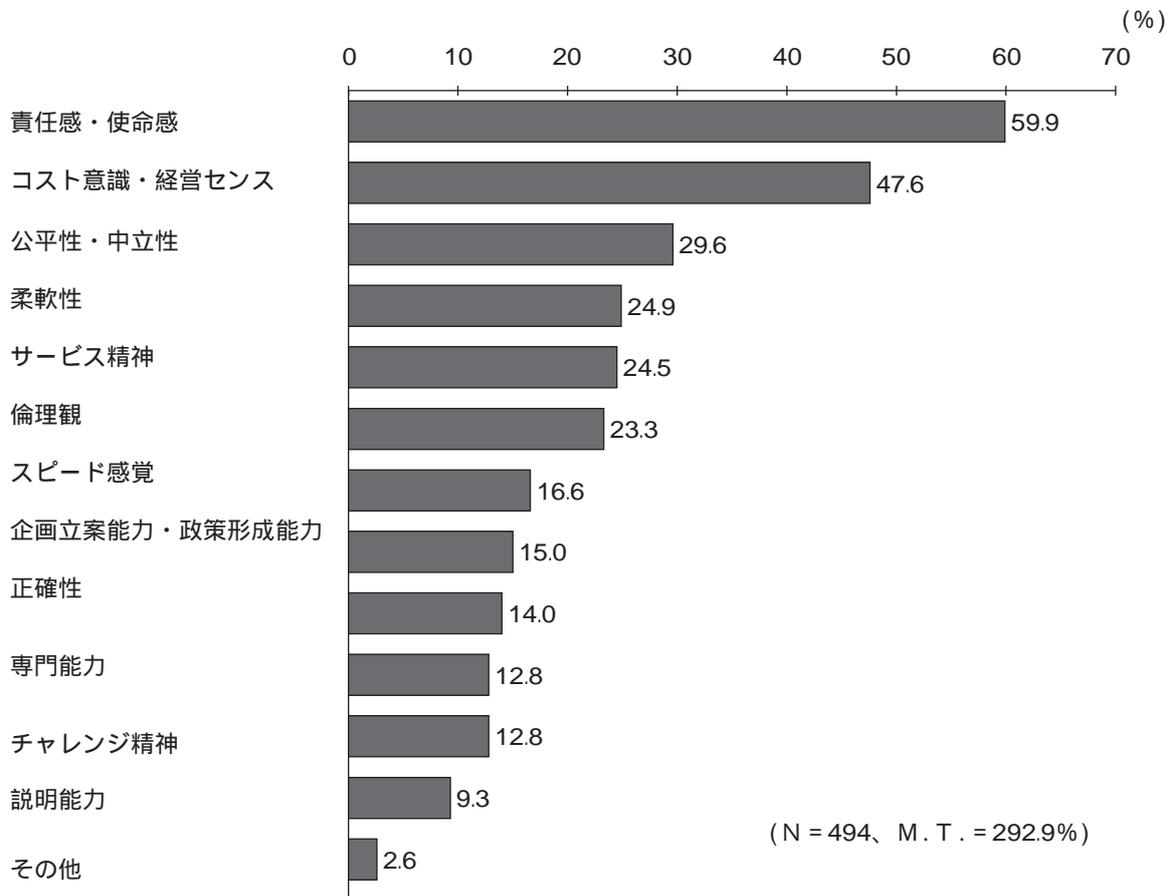
今回の調査では、「県政の発展や県民のためによく努力している」と回答された方が1.4%となり、平成19年度に実施した県政モニター調査を3.5ポイント下回るという結果となりました。

このような結果を謙虚に受け止め、県民の皆様の信頼を回復し、よりよい県政を推進していくため、職員一丸となって、全力を尽くしてまいります。

(総務部総務課)

## 8 県職員に求められる能力・資質

問8 あなたは、県職員にはどのような能力や資質が求められていると感じますか。特に重要だと思うものを次の中から選んでください。(回答は3つ以内)



県職員にはどのような能力や資質が求められていると感じるかを尋ねたところ、「責任感・使命感」が59.9%、「コスト意識・経営センス」が47.6%と高く、「公平性・中立性」が29.6%、「柔軟性」が24.9%などとなっている。

私たちに求められている能力・資質として、公務員が当然備うべき「責任感・使命感」や「公平性・中立性」が上位を占めました。また、「コスト意識・経営センス」が47.6%と2番目に高くなっており、これは県民の皆様が職員に対して、限られた財源を効率的にサービスに結びつける仕事ぶりを望まれているものと考えます。  
(総務部総務課)

## 9 自由意見

問9 県の事務事業（県の仕事）に関して無駄とか、廃止しても支障がないとお感じのことがあればお書きください。

県の事務事業（県の仕事）で無駄なもの、廃止しても支障がないと感じられるものについて、自由に意見を記入していただいたところ、233件の意見が寄せられた。以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

無駄や廃止を考えるよりも、過去の仕事にとらわれず、最優先で必要なことを決定することが大事ではないか。

まず、「本当に県民が望んでいることなのか」を第三者（専門家、民間、県民など）に聴くべき。今、これから何が必要かを探して、その実現のために当面不要なものをカットすべき。

大ナタを振るうべく、トップ（知事）の決断が必要ではないか。

名古屋市のように、無駄なことは大胆に廃止や中止を検討してほしい。

名古屋城本丸御殿の整備は、今やるべきではないような気がする。

徳山ダムのように長期予想が必要な事業は、立ち止まって考えることも必要。

中部国際空港の二本目滑走路や設楽ダム建設の必要性をよく考えるべきだと思う。

名古屋市の図書館が充実しているため、県図書館は、一般図書の貸出よりも、専門性に特化したものとしてはどうか。

不要な建物（ハコモノ）はなくすべき。

県庁やその他庁舎が一等地にあり立派すぎる。使っていない施設は広く県民に開放してほしい。

イベントに間に合わせ、後のことを考えることなく、交通システムに県のお金を無駄遣いしないでほしい。

予算を完全に使い切るために、毎年期末に近づくとあちこちで道路工事が行われている。年間を通じて平均できないものか。

下水道事業や県営住宅管理で無駄や非効率なものはないか見直すべき。

公園によって利用者数の差が大きい。利用者の少ない公園の廃止を検討してはどうか。

県民の利用率が低い公共サービス事務は、廃止を検討してもよいのではないか。

統計や調査は毎年ではなく、隔年ではいけないのか。

電子申請制度は、廃止しても支障がない気がする。

国際交流、観光対策の2つは県財政に余裕があつての話。積極策をとる必要はない。

雇用対策へ多くの予算を投入しているようだが、効果が見えてこない。

これから高齢者は珍しくなくなるため、長寿者への祝金を廃止してはどうか。

日常の報道で十分内容が伝わっているため、ラジオやテレビ、新聞の広報は必要ない。

標語の募集や啓蒙ポスターの作成など、あまり効果を発しているように思わない。

県立大学などを廃止して、そのお金で私立大学に通う所得の少ない家庭の子に奨学金を出してはどうか。

資料館や記念館などの施設を統廃合したり、一括管理するなど、削減に努めてほしい。

広報誌などの発行枚数が多く、カラーで作成しなければならないのか非常に疑問。

機関誌やチラシではなく、インターネットなどの電子媒体をできるだけ活用する。

照明や空調、ガソリン代などエネルギーの無駄をなくすべき。

出張・残業などの縮小に努力すべき。

県庁組織自体に無駄はないか、非効率的な組織体制になっていないか見直すべき。

愛知県道路公社は既に廃止しても支障がないのではないかと思う。

事務の合理化は現場が一番よく知っている。現場にどんどん改善案を出させ、管理者は提案しやすい雰囲気をつくる必要がある。

何かを廃止するより、まず、職員の意識を変えることが必要ではないか。

忙しくない職場もあると思うので、仕事を兼任させ、職員数を減らしてほしい。

定年退職者の再任用は無駄ではないか。天下りは絶対廃止。

税金の無駄遣いをやめ、県民税を低くしてほしい。

県職員も給料をカットし、各種手当も見直すべき。

県議会議員・各種委員の定数や手当について、検討すべき時期がきているのではないか。

NPOとの協働などは、行政サービスの水準や公平性の観点から、「協働」が本来の役割を發揮しているのか点検、見定めが必要。

民間に任せるところは任せ、歳入に見合った予算で事業を実施すべき。

許認可事務にかかる審査等は第三者機関に任せてはどうか。審査結果はしっかり確認する必要があるが、人件費と時間は削減できる。

なんでもかんでも民間に任せるとはよくないと思う。

国、県、市の出先機関が重複しているところが多くある。

パスポート交付業務は、住所地の自治体で申請できれば県民にとって便利である。

県立病院を民営化（独立化）してもいいと思う。

教育・生涯学習は民間、社会活動はNPO、観光対策は各市町村に任せてはどうか。

学校の事務職員や用務員は民間に委託したり、地域のボランティアに委ねてはどうか。

保健所は市町村、給食センターは民間、農業改良普及事業は農協に任せてはどうか。

問10 県の行財政改革について、ご意見・ご提案等があれば、自由にお書きください。

県の行財政改革について、自由に意見を記入していただいたところ、296件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 財政の健全化に向けた取組	20
(2) 県の仕事の見直し	86
(3) 民間活力の活用	9
(4) 公の施設の見直し	8
(5) 県関係団体等の見直し	7
(6) 市町村への権限移譲	4
(7) NPOなど民間との協働	3
(8) 組織・機構の見直し	6
(9) 定員や給与等の適正管理	32
(10) 人材の育成・活用	32
(11) 透明性が高く開かれた県政の推進	25
(12) 県民サービスや仕事の効率性・生産性の向上	13
(13) その他	51
合 計	296

## (1) 財政の健全化に向けた取組

今後未来の子どもたちに負債を負わせることのないよう、バランスのいい行財政に少しでも近づけさせることが、現職員の仕事ではないか。

収入に見合った支出をすべきであり、好景気と不景気のバランスシートを予測して予算を立て、不況の時は好況時に埋め合わせられる範囲内での財政出動にすべき。

大阪府が1年で赤字をなくした。愛知県でも知事が本気でやればできると思う。次世代のために早く健全な財政にしてほしい。

安易な県債の発行はすべきではない。全て県民の将来の負担となるもの。今時点で（将来ではなく）適正な行政規模に縮小すべき。

赤字予算を組まない健全財政を進めていくためには、大胆な方策が必要。

本年度は異常事態で財政は厳しいと思うが、世の中を考えて、人件費を見直すべき。

これから少子化高齢化が進むため、少しずつ準備していくのが財政のやり方だと思う。30年後の

愛知県の人口分布を考えると怖い気がする。

予算が余ったら、返還することを徹底し、次年度に繰り越すことができた部署は表彰するなど、工夫してほしい。

企業からの税金に頼り過ぎないように税金を創設することにより、不況においても健全な行財政を保つことができると思う。

公有財産の現状を見ていて、なぜ、有価証券・株券を持っているのか疑問。こういうところで税金を運用してほしいと思う。損益を出しているのではないか。

消費税・県民税・諸税引き上げは全く考えることなく、民間企業及び県民家庭生活の苦しみ・厳しさを十分考慮して経費を再検討してほしい。

## (2) 県の仕事の見直し

必要な人、物、施設、経費全てを見直し無駄を省く。県民に現在の状況を明確に公表し、県民の意見を重視する。

すべての業務において、過去の検証が行われるべきである。

活用されていない取得地（いわゆる塩漬けとか言われたりする）はどうなるのか。過去の負の遺産を見つめ、将来に新たな負を残さないようにしてほしい。

収入に結びつかない大イベントや箱物の建設は極力控える。

名古屋城本丸御殿整備は、今の財政を考えると重要な項目とは言い難いのではないか。

「中部国際空港」「設楽ダム」など昔ながらの公共事業に目がいってしまう。どうしてもやらなければならない理由を詳細にすることが求められている。

建設その他民間に関わる県の仕事を行政改革によりやめてしまうと、それにつながる企業も窮することとなり、ますます企業は立ちゆかない。

名古屋高速などの値下げは、車の使用を増加させ、CO<sub>2</sub>排出を増加させるのではないか。その費用を公共交通機関使用促進に活用した方がよいと思う。

東海、東南海地震に対する事前情報の取得を強化してほしい。

愛知県は科学技術拠点、さらには金融拠点への転換を進めるべきと思う。

年度末の道路工事は「予算を使い切るための仕事」に思えてしかたない。

エコカーを導入するより、エコサイクル（自転車）を導入してはどうか。

県営住宅入居者チェックの徹底。または収入制限の見直し。

県営住宅の家賃未払いを確実に取り立て、県の財源確保に役立たせてほしい。

関係者だけしか集まらない「シンポジウム」は無駄。活性化に結び付かない「活性化名目の補助金」も無駄。

世の中仕事が無くなれば確実に犯罪が増える。現に愛知県でも治安は目に見えて悪くなっている。上手にお金を使ってもらいたい。

まず、県民が健全に暮らすために、医療・福祉・雇用に力を入れてほしい。

子育て・妊娠した女性への支援が少ないと思う。もっと充実した援助があれば、子どもを産みたいと思う人も増え、少子化も改善するのではないかな。

少子高齢化社会の中で、ちょっと最近婚活ブームになっている。ぜひ行政が積極的に取り組んでほしい。

次の時代を背負って立つ子ども達の教育にもっと力を入れてほしい。

健全な公立病院の運営をしてほしい。その為には、当然、医師、看護師の確保。少子化対策と言いつつ、産科医、小児科医が不足しているのはおかしい。

少子化で田舎、農村が人気なく寂れていく。田舎にも老人施設をつくり、県が補助、援助し、県営住宅をつくると、人口が多くなると思う。

テレビ、ラジオ等での県政ニュース（放送局ごとに内容が違う）よりも、紙による共通の配信をしたほうがよい。

広告収入の提案。封筒や庁車・公用車等大勢の目に触れるものに県下優良企業等のPRを載せる。

平成21年度から新税を導入したが、県の財政が厳しくても増税すればよい、という考えが根底にあるのでは。

職員の（組織）仕事全般にわたり不正ができる要素がないか再度検討して、県民の信頼を取り戻してほしい。

自治体も住民（有識者、住民代表者）による行財政務監査をやる「しくみ」をつくるべき。

### (3) 民間活力の活用

民間企業との競合部門は極力民営化、もしくは廃止すべき。

アウトソーシングをもっとすべき。

民間委託にすると、職員数の削減や民間の雇用拡大につながると思う。

航空宇宙産業研究施設整備を、なぜ県が関わらなければならないか疑問。民間や国に任せてはどうかな。

観光客にとって魅力のある県とするため、民間も巻き込んだ会議等を行ってはどうか。

民間活力の導入による競争原理とコスト意識を徹底させるべき。

民を県政に生かすことが重要であると思われ、簡単に誰でも参加できるネットを構築してはどうかな。

### (4) 公の施設の見直し

不要な施設や事業など、どんどん見直してほしい。

財政収入が減れば、無駄な公共施設は廃止すべき。

県の施設から最大限の収入を得る努力をすべき。たとえば芸術文化センターに、もっと飲食店や

売店をだせばよい。

県の施設（芸術劇場や美術館）の入場料をもう少し安くしてもらいたい。

県の公共施設は、市町村立のそれに比べて冷たく薄暗い感じがする。

## (5) 県関係団体等の見直し

外郭団体の統廃合を積極的に行うべき。

今、県の外郭団体がいくつあり、何をやっているのか、その費用等について、県民に情報を公開してほしい。

外郭団体や関連の民間企業への転職（天下り）が慣習化しており、効率化は期待できないと思う。第三セクターの経営など見聞すると、見通しの甘さが目立つ。思い切った中止、中断、見直しをすべき。

県民は苦しんでいます。第三セクターへ再就職した人は、給料の減額をすべき。

## (6) 市町村への権限移譲

県の行政は必要最小限とし、住民への直接サービス部門は可能な限り市町村行政へ委ねるべき。

市町村へのさらなる移譲により、スリムな体制を目指してほしい。

## (7) NPOなど県民との協働

県民との協働は、何をやっているのかあまり想像できない。

NPOに対して支援・協働も大切だが、事業内容等を厳しくチェック、指導教育していく必要がある。

## (8) 組織・機構の見直し

市民の意見が通りやすい組織をつくるべき。

簡素で効率的な県政の実現を望む。出先機関の再編と機能強化をすべき。

保健所のあり方を見直すべき。大事な部署なのに、各課で何をしているのかが分かりにくい。

無駄なお金の流出が多い。お金の流出を未然に防ぐ監査組織を充実強化すべき。

組織の統廃合を進めてよりスリム化し、権限の移譲を図るとともに、責任感を強く持った経営者的な感覚で物事に対処してほしい。

## (9) 定員や給与等の適正管理

愛知県の財政は破綻状態、民間のようにリストラ、あるいは、給料や退職金を削減すべき。

職員の給与を上場企業の平均での比較でなく、中小企業との比較への下げるべき。

県職員の給料を県の財政と連動方式にし、赤字を減らせば給料が上がるようにしてはどうか。

早急に職員の給与を含めた待遇を改善して欲しい。いま、公務員に対するバッシングが大変大きくなっていると思うが、現状は優遇されすぎていると思う。

介護の現場を見てほしい。賞与もないところはたくさんある。

職員の給与・賞与カットは大変厳しいと思う。特に若手職員は希望を持って県職員になったと思うので、配慮があってもよいと思う。

ある程度の職員数を維持してワークシェアリングをするのか、早期退職者を募ったり採用者を減らして少数精鋭にするのかをきちんと選択すべき。

県警察官の配置を見直すべき。派出所の現状は、ほとんど無人。

小・中学校の先生は減らすべきではない。

## (10) 人材の育成・活用

職員の意識改革が必要だと思う。本当に無駄なものが発見されているのか？それをやめていく行動がされているのか？

もっと民間と同じようにコスト意識・企業意識を持ってほしい。

県庁職員にはスピード感覚をもっと身につけてほしい。

県の行政ともなると、仕事の幅が増えて大変だと思うが、備品など最大限に削って、1人ひとりが倫理観を持ってほしい。

年配の職員の中には時代錯誤のように横柄に上から目線での対応が見受けられる。

予算を使い切るのが優れた組織・管理職という観念を徹底払拭しなければならない。

裏金問題とか許せない。県政に懸命に取り組んでいる人にも、我々県民にも失礼。何とか頑張っ

てほしい。

意識改革を図るためにも「年齢制限を撤廃したキャリアのある民間人の採用」をさらに図るべき。

県定年職員の再雇用をやめる。今年なら全てやめること。特例として、その人の能力を生かすのであれば、無償でやってもらえる人を選ぶべき。

天下りを禁止してほしい。この不景気で退職金が出ない、減額される民間人は多い。

私は全ての天下りを否定しない。天下りの人の高給や高退職金が納得できない。

県職員の質の確保は大切な問題だと思う。そのためにもやみくもな賃金カットは将来的にもマイナスになるような気がする。

近年、県職員の不祥事が多発しているが、もっと罰則を強化し、懲戒免職もするべき。それが防止にもつながるのではないかな。

職員のキャリアについては「成果主義」をとり入れた「緊張感のある」人事制度を取り入れるべきではないか。

お金を取り扱う業務の人達は、1～2年で異動させ、不正を職員同士で目を光らせてほしい。担当が次々かわり、積み重ねは十分なのだろうか。  
住民へもっと分かりやすく、優しい職員の方を県職員として採用してほしい。

## (11) 透明性が高く開かれた県政の推進

県民に対し、公開をできるだけ進めてもらいたい。開かれた県政を望む。

民間の施設などに県の資料を置いたりするなど、職員だけでなく、「みんなで考える」県政にしていったらどうか。

意見を求める、目安箱の設置をしてはどうか。

愛知県の行っている施策が市の行っている施策と比べると身近でなく、ぼやけてしまっている。もっと県民にアピールしてほしい。

赤字が深刻化していることが県民には分かりにくいので、もう少しPRをすべき。

高齢者や低所得者の生活の安全・安心につながる施策を分かりやすくPRしてほしい。

大人から小学生くらいの子どもでも理解できるように、行財政の現実を月給にたとえて頻繁にアピールした方がよいのでは。

首相官邸が発行している『メールマガジン』などのように、知事からも県民に情報を発信してほしい。

各部署で毎年目標を立てて、県民に分かりやすく公表してほしい。

## (12) 県民サービスや仕事の効率性・生産性の向上

無駄をなくす努力だけでなく、サービスの質の向上にも力を入れるべき。

人間的に優秀な人材を確保することで仕事の効率を上げれば、無駄をなくしながらも、県民へのサービス提供も十分に行っていけるようになると思う。

公共機関の受付業務ですが、土日も行っていきたい。

公共施設などにおいて、物理的にも精神的にも明るい雰囲気づくりをすることも、県民サービスではないかと思う。

現在の財政状況では、後世を担う若い人達のためにも、県民が耐え忍んで頑張り、多少のサービスの低下を我慢すべきではないだろうか。

各部署が主婦感覚で経費と向き合えば、残高が残り、借金（県債）へ充てたり、県民によりよいサービスの提供ができるのではないかと。

借金を減らしていけるように、事業の一層の効率的な運営が必要と思うが、県民に不利益を押し

付けるのは本末転倒なので、特権、無駄、非効率をまずなくす。

税金は高くない方がよい。低くしすぎて県民へのサービスが下がるのは好ましくないので、バランスを考えて財政も行ってほしい。

### (13) その他

「自主・自立の活気あふれる地域社会、スリムで躍動感のある県庁」となるように、標語負けしないで実行してもらいたい。

あいち行革大綱2005のことは知らなかった。いろいろなところでコスト削減していてすごいことだと思う。

知事自身が真剣に行財政改革に取り組む姿勢を示してほしい。

最初に1～2割削減を目標とすると改革は進まない。ゼロベースでどうしても必要なものだけを拾っていく発想が必要ではないか。

県政もいろんな意味でチャレンジしてもらいたい。

行財政改革も努力していることは認めるが、一方で金銭に関わる悪事などが発覚するようでは努力も無駄になってしまう。

自由競争で成果主義に走りすぎることは絶対に避けるべき。利益追求が最後の目的とならないのが公の仕事だと思う。

合理的で無駄がなければよいというものではなく、ゆとりと穏やかさと潤いを与えるような無駄も人間が生きていくには必要なのではないか。

あまり慣例を重んじないことが必要と思う。

子供を産みたい・育てたいと思える地域社会づくりを希望する。

厳しい財政状況の中、特別職の報酬削減や議員報酬の日当制も必要ではないか。

民間企業とは違ってあせりがみえない。つぶれることがないという余裕があるのか。

急な景気の悪化で全てに狂いを生じてしまってるが、目先にとらわれず、今後を見据えた改革をしてもらいたい。「早い景気回復を願いたい」

3年後5年後10年後を考えるのは民間企業、行政は30年後50年後の愛知を、愛知県民をどこにもっていこうと考え、行動するのが県の役割と思う。

本当に必要なもの。本当は不要なものを県職員・県民がしっかり考えることが大切だと思う。

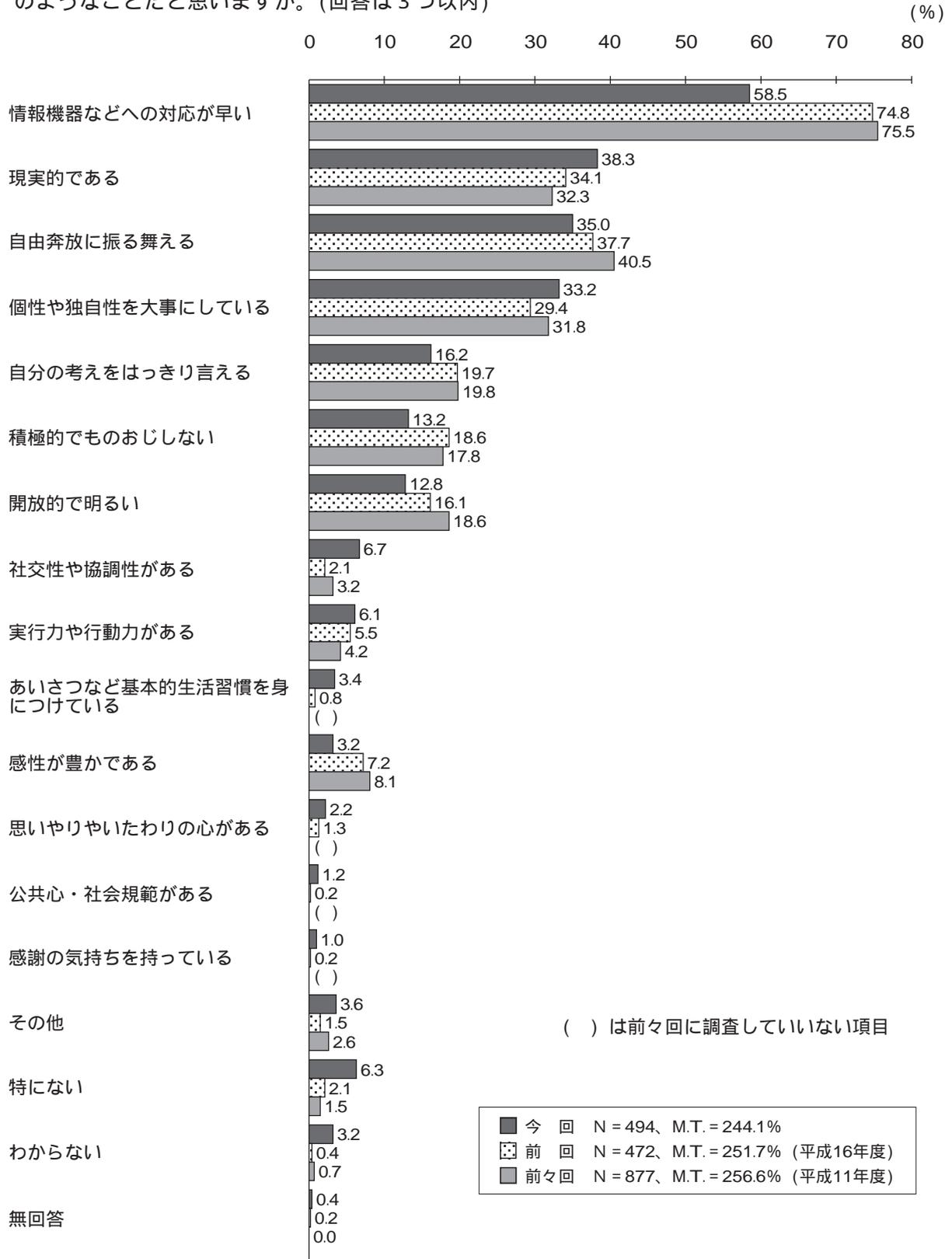
裏金問題が表面化して久しいが、不信感はまだぬぐえない。

県民が安心して暮らせる行財政を望む。公金の不正使用はしないでほしい。

# 青少年の健全育成

## 1 現在の青少年像

問11 あなたは、現在の青少年の考え方や行動を身近に見て、優れている面をあげるとすればどのようなことだと思いますか。(回答は3つ以内)



現在の青少年の優れている面を尋ねたところ、回答の多かった項目は、「情報機器などへの対応が早い」が58.5%、「現実的である」が38.3%、「自由奔放に振る舞える」が35.0%、「個性や独自性を大事にしている」が33.2%などとなっている。

一方、回答の少なかった項目は、「感謝の気持ちを持っている」が1.0%、「公共心・社会規範がある」が1.2%、「思いやりやいたわりの心がある」が2.2%、「感性が豊かである」が3.2%、「あいさつなど基本的生活習慣を身につけている」が3.4%などとなっている。

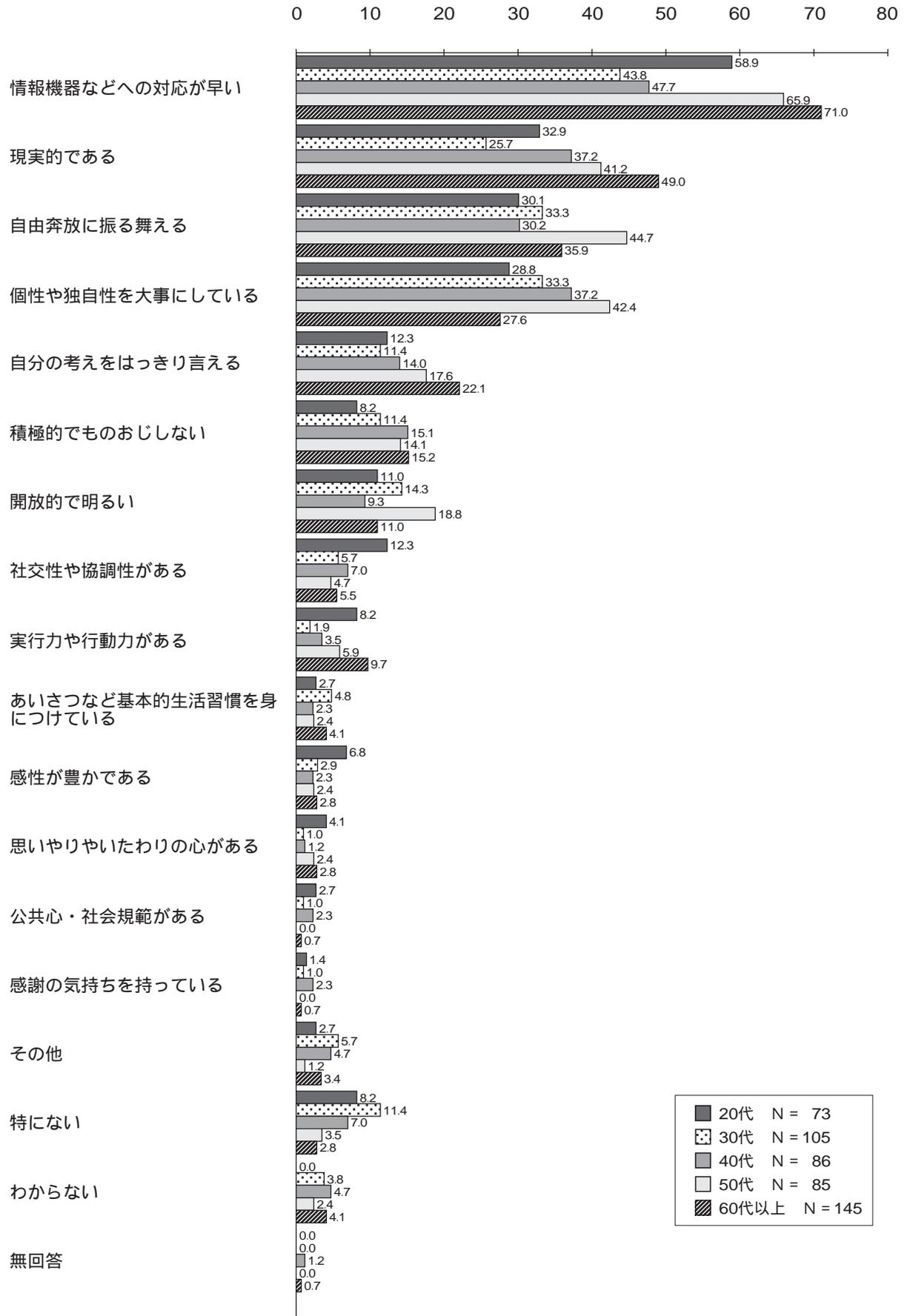
年代別にみると、「情報機器などへの対応が早い」で20代、50代、60代以上の割合が高くなっている。また、「個性や独自性を大事にしている」で60代以上の割合が低くなっている。

#### 【前回及び前々回との比較】

前回及び前々回の調査結果と比較してみると、「情報機器などへの対応が早い」の割合が大きく低下している。

(年代別)

(%)



過去2回の調査と比較して、現在の青少年の考え方や行動について、優れている面の順位及び割合（「情報機器などへの対応が早い」を除く）に大きな変化がないことから、青少年に対する県民意識は大きく変化していないといえます。

なお、「情報機器などへの対応が早い」と答えた人の割合が過去2回の調査と比較して、大きく低下していますが、年代別の調査結果から、30代、40代の人々の割合が低くなっていることが影響していることがわかります。

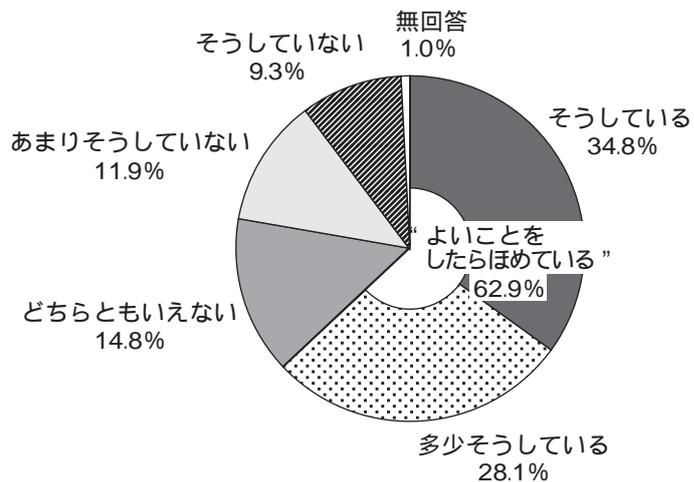
(県民生活部社会活動推進課)

## 2 青少年とのかかわり方

問12 あなたは、地域の青少年とどのようなかかわり方をしていますか。次の項目ごとに、点線内の選択肢の番号で回答してください。(回答はそれぞれ一つ)

(1) よいことをしたらほめている

N = 494

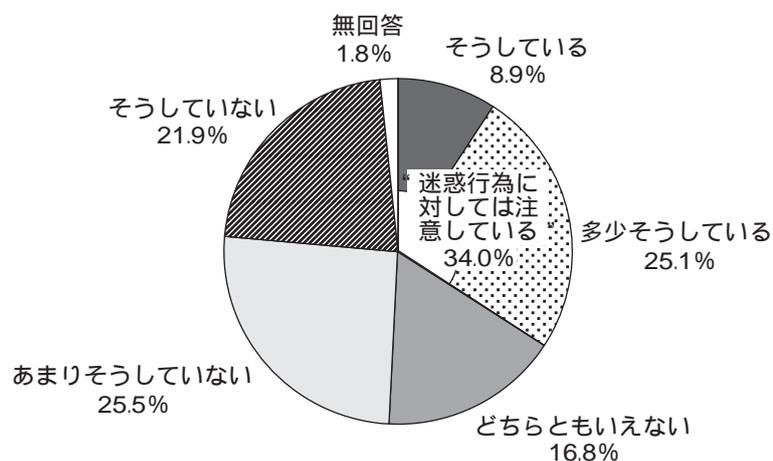


地域の青少年とのかかわり方について、よいことをしたらほめているかを尋ねたところ、「褒めている」が34.8%、「多少褒めている」が28.1%で、合わせた“よいことをしたらほめている”が62.9%に対して、「あまり褒めていない」、「褒めていない」が合わせて21.2%となっている。

問12 あなたは、地域の青少年とどのようなかかわり方をしていますか。次の項目ごとに、点線内の選択肢の番号で回答してください。(回答はそれぞれ一つ)

(2) 迷惑行為に対しては注意している

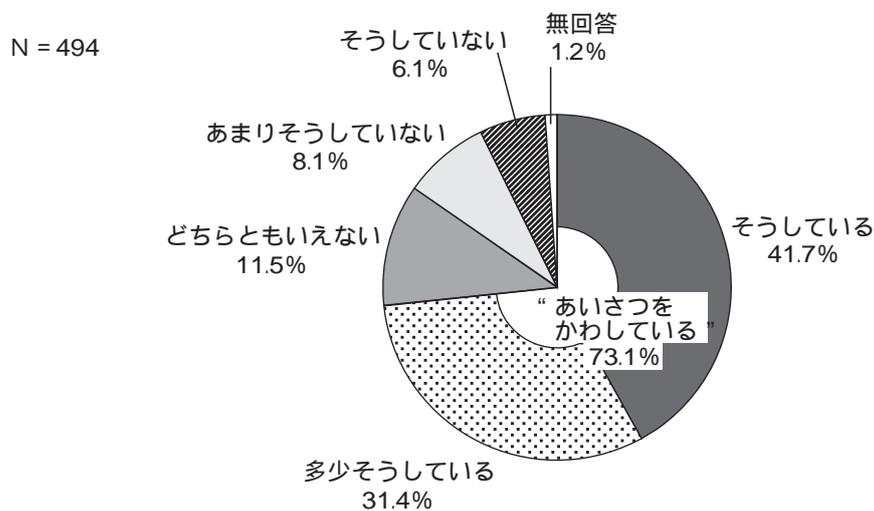
N = 494



地域の青少年とのかかわり方について、迷惑行為に対しては注意しているかを尋ねたところ、「そうしている」が8.9%、「多少そうしている」が25.1%で、合わせた“迷惑行為に対しては注意している”が34.0%に対して、「あまりそうしていない」、「そうしていない」が合わせて47.4%となっている。

問12 あなたは、地域の青少年とどのようなかかわり方をしていますか。次の項目ごとに、点線内の選択肢の番号で回答してください。(回答はそれぞれ一つ)

(3) あいさつをかわしている

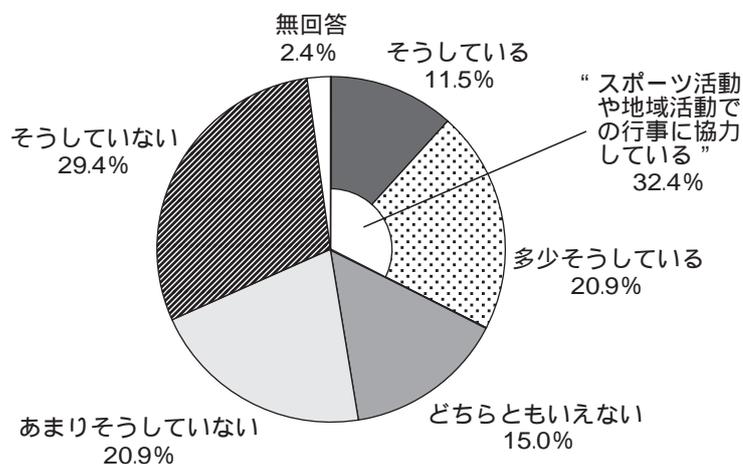


地域の青少年とのかかわり方について、あいさつをかわしているかを尋ねたところ、「そうしている」が41.7%、「多少そうしている」が31.4%で、合わせた「あいさつをかわしている」が73.1%に対して、「あまりそうしていない」、「そうしていない」が合わせて14.2%となっている。

問12 あなたは、地域の青少年とどのようなかかわり方をしていますか。次の項目ごとに、点線内の選択肢の番号で回答してください。(回答はそれぞれ一つ)

(4) スポーツ活動や地域活動での行事に協力している

N = 494



地域の青少年とのかかわり方について、スポーツ活動や地域活動での行事に協力しているかを尋ねたところ、「そうしている」が11.5%、「多少そうしている」20.9%で、合わせた“スポーツ活動や地域活動での行事に協力している”が32.4%に対して、「あまりそうしていない」、「そうしていない」が合わせて50.3%となっている。

平成20年度に県で実施した「子どもの生活実態調査報告書」では、子どもの発達・自立にとって、地域の大人からほめられたり叱られたりすることや、話を聞いてもらうことなど、地域社会との「つながり」が大切であるとされています。

調査結果では、“あいさつをかわしているか”との質問に「そうしている」「多少そうしている」が合わせて73.1%、“よいことをしたらほめているか”との質問に「そうしている」「多少そうしている」が合わせて62.9%となっており、地域社会において、多くの大人が青少年と一定の「つながり」を持っていることがうかがわれます。

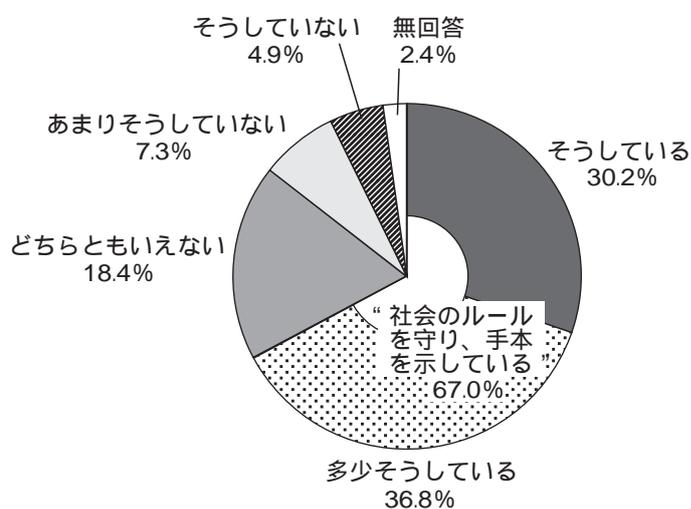
一方、“迷惑行為に対しては注意しているか”及び“スポーツ活動や地域活動での行事に協力しているか”との質問では、それぞれ「そうしている」「多少そうしている」が合わせて30%強に止まっており、より積極的な関わり方をしている大人の割合は、あまり多くないことがわかります。

(県民生活部社会活動推進課)

問12 あなたは、地域の青少年とどのようなかかわり方をしていますか。次の項目ごとに、点線内の選択肢の番号で回答してください。(回答はそれぞれ一つ)

(5) 社会のルールを守り、手本を示している

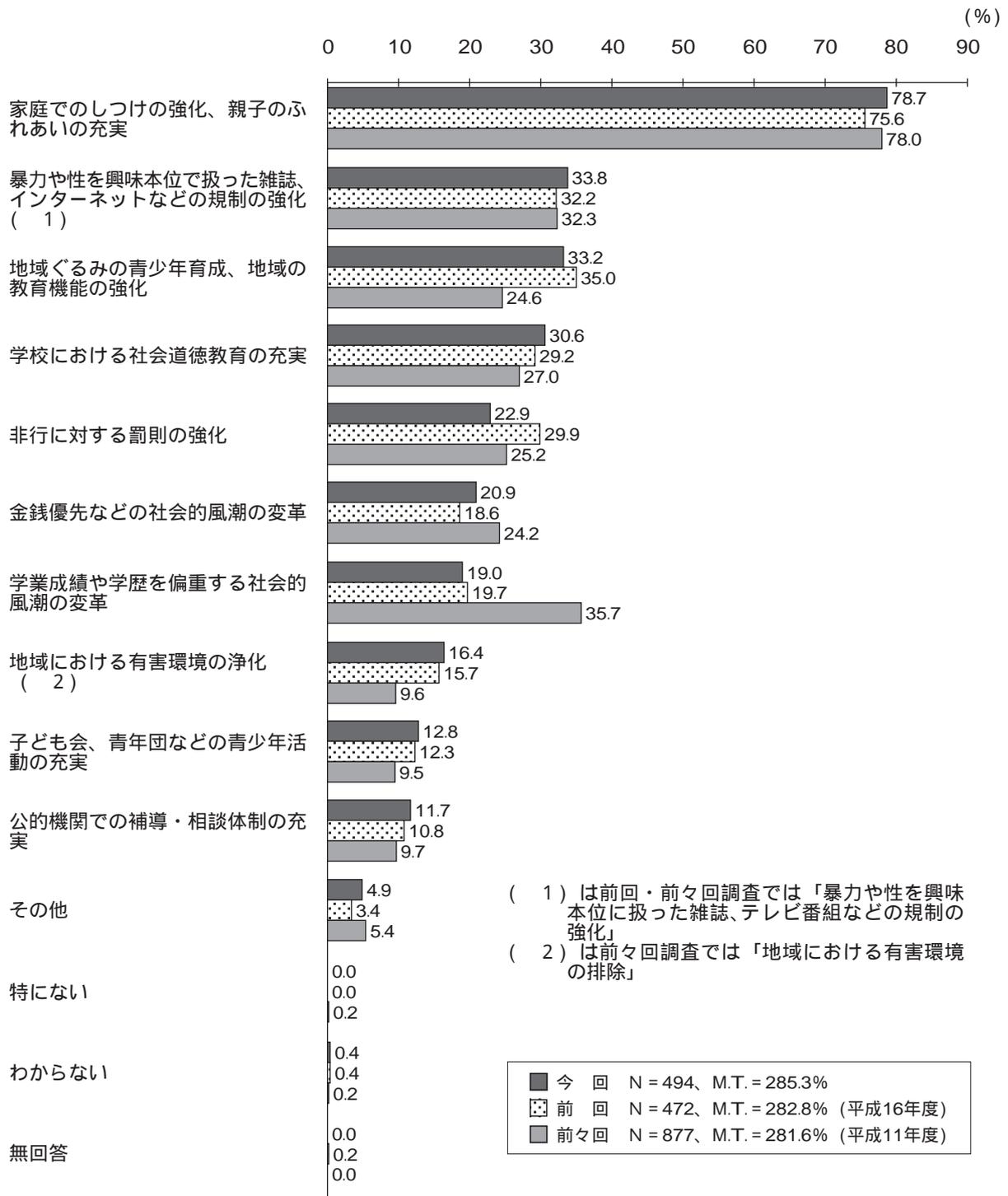
N = 494



地域の青少年とのかかわり方について、社会のルールを守り、手本を示しているかを尋ねたところ、「そうしている」が30.2%、「多少そうしている」が36.8%で、合わせた「社会のルールを守り、手本を示している」が67.0%に対して、「あまりそうしていない」、「そうしていない」が合わせて12.2%となっている。

### 3 青少年の非行等問題行動の防止

問13 青少年の非行等問題行動にはさまざまな要因がありますが、非行等を防止するためにはどのようなことが重要だと思いますか。(回答は3つ以内)



非行等防止のために重要なことを尋ねたところ、「家庭でのしつけの強化、親子のふれあいの充実」が78.7%、「暴力や性を興味本位で扱った雑誌、インターネットなどの規制の強化」が33.8%、「地域ぐるみの青少年育成、地域の教育機能の強化」が33.2%、「学校における社会道徳教育の充実」が30.6%

などとなっている。

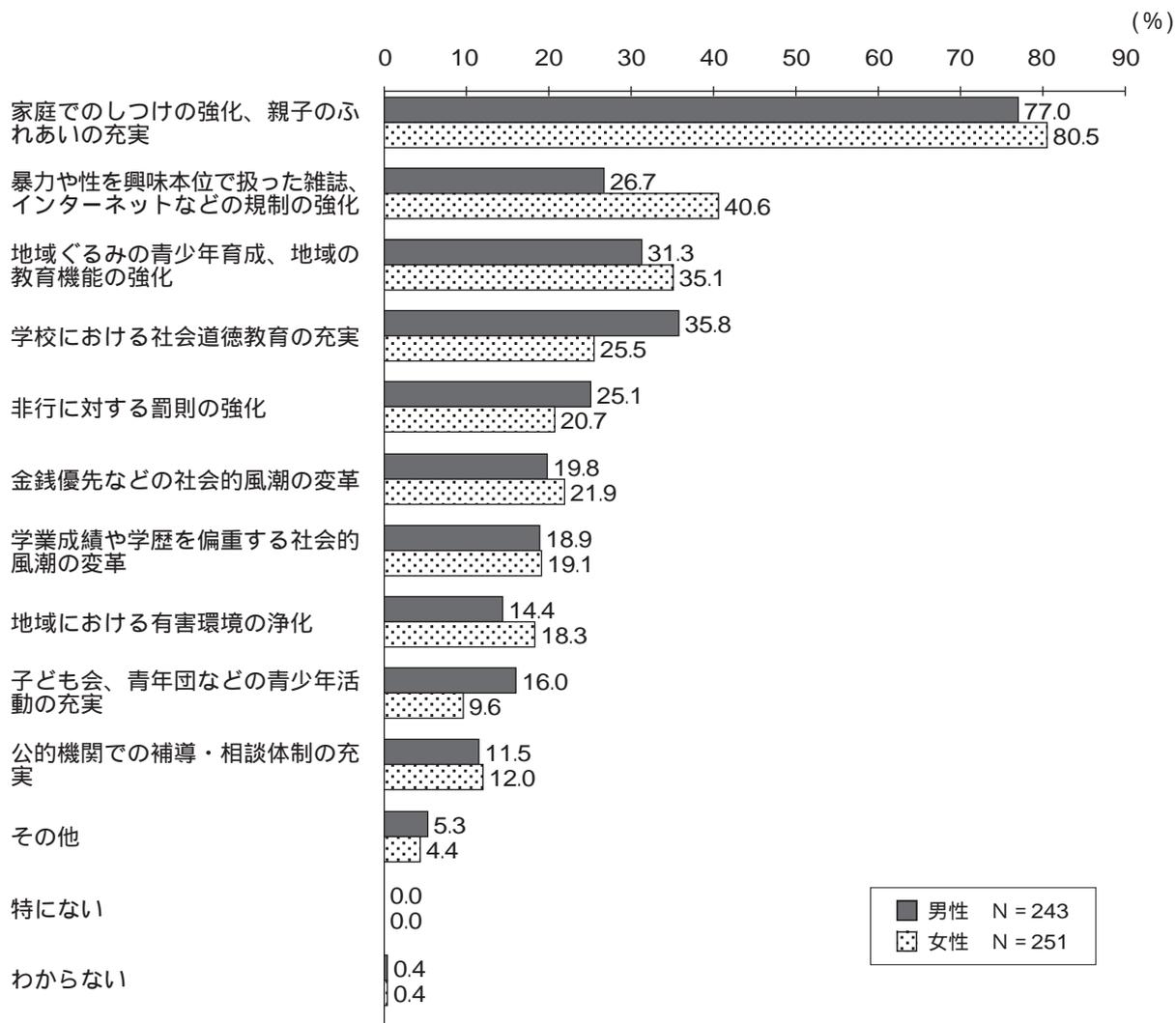
男女別にみると、「暴力や性を興味本位で扱った雑誌、インターネットなどの規制の強化」で女性の割合が、「学校における社会道徳教育の充実」で男性の割合が、それぞれ高くなっている。

年代別にみると、「暴力や性を興味本位で扱った雑誌、インターネットなどの規制の強化」で60代以上、50代の割合が、「地域ぐるみの青少年育成、地域の教育機能の強化」で30代、20代の割合が、「学校における社会道徳教育の充実」で60代以上の割合が、それぞれ高くなっている。

【前回、前々回との比較】

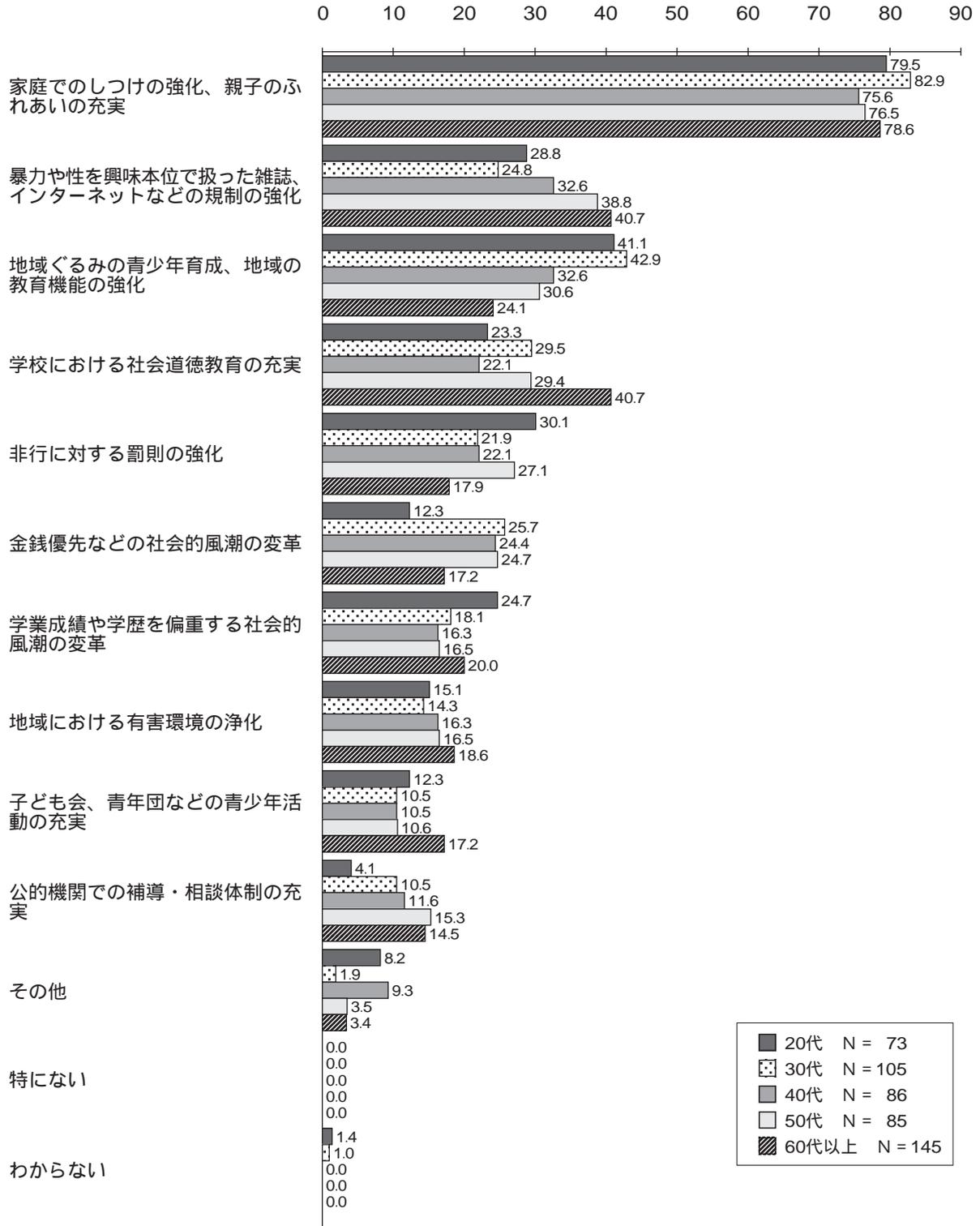
前回、前々回と比較してみると、前回に比べて、「非行に対する罰則の強化」の割合がやや減少している。

(男女別)



(年代別)

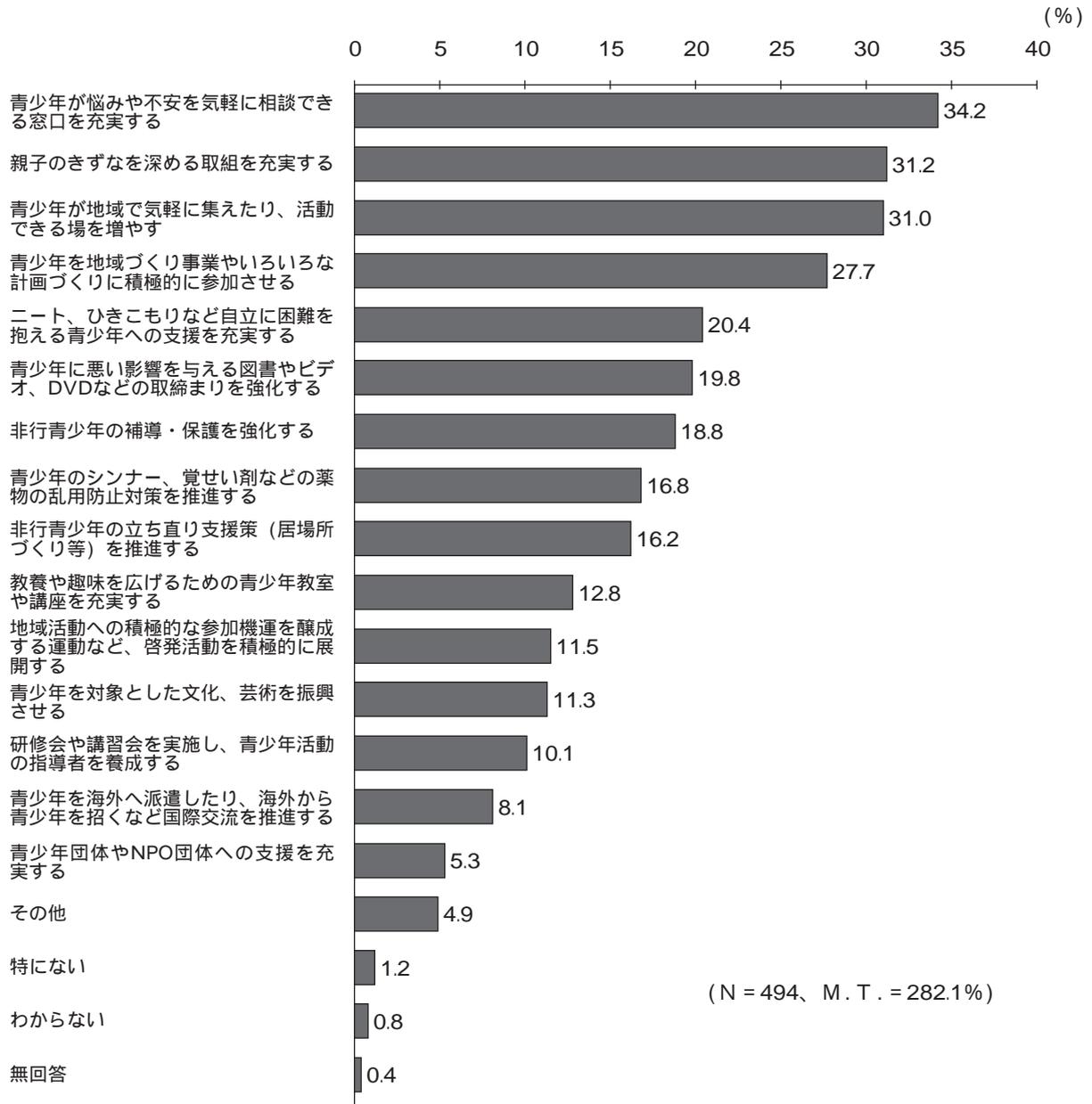
(%)



青少年の非行等防止対策としては、「家庭でのしつけの強化、親子のふれあいの充実」と答えた人の割合が75%を超えていますが、「地域ぐるみの青少年育成、地域の教育機能の強化」、「学校における社会道徳教育の充実」と答えた人の割合も30%を超え、上位を占めております。このことから、青少年の非行等防止対策には、一義的には家庭が果たす役割が大きいものの、学校や地域社会の問題として捉えている人が多いことがうかがわれます。  
(県民生活部社会活動推進課)

## 4 行政への要望

問14 青少年の自立をはぐくみ、健全育成を進めていくために、行政は特に何を推進すべきだと思いますか。(回答は3つ以内)



青少年の自立を育み、健全育成を進めていくために、行政が特に推進すべき施策について尋ねたところ、「青少年が悩みや不安を気軽に相談できる窓口を充実する」が34.2%、「親子のきずなを深める取組を充実する」が31.2%、「青少年が地域で気軽に集えたり、活動できる場を増やす」が31.0%、「青少年を地域づくり事業やいろいろな計画づくりに積極的に参加させる」が27.7%などとなっている。

青少年の自立をはぐくみ、健全育成を進めていくために行政が特に推進すべき施策としては、青少年を対象にした相談窓口の充実、親子のふれあい、地域における交流の促進、と回答した人が多くなっています。また、今回、初めて選択肢とした「ニート・ひきこもりなど自立に困難を抱える青少年への支援を充実する」も20.4%となっています。

県では、2月を「家庭の日」県民運動の強調月間と定め、その普及啓発を図るほか、「少年（中学生）の主張愛知県大会」などの青少年の社会参加体験事業を行っていますが、青少年を対象とした相談・支援策についても、引き続き、充実に向けて取り組んでまいります。

(県民生活部社会活動推進課)

## 5 自由意見

問15 青少年の健全育成についてご意見があれば、自由にご記入ください。

青少年の健全育成について、自由に意見を記入していただいたところ、322件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 家庭・保護者について	69
(2) 学校・教育について	29
(3) 地域社会について	23
(4) 家庭・学校・地域の連携について	15
(5) 成育環境について	28
(6) 社会情勢について	20
(7) 大人の対応、大人社会について	28
(8) 青少年活動について	16
(9) 行政への要望、行政の役割について	29
(10) その他	65
合 計	322

### (1) 家庭・保護者について

家庭でのしつけが大切だと思う。今の親は子どもを叱らず、子どもの顔色ばかり見ている。社会に出た時に困らないように最低限のことは家庭でしつけるべきである。

家庭で大切なことは、子どもの頃から「他人に迷惑をかけない」ということをしっかり教え込むこと。それができていれば、健全育成につながるはずである。

物が豊かになった分、言葉や気持ちの代わりに子どもに物を与えて済ませているように感じる。親は、子どもとの会話を通じてその考えを理解し、必要に応じて修正する責任がある。幼い頃から、何度も何度も繰り返すように伝えたことは、子どもの心の中に必ず残るものと信じている。

今の子どもは、時間があるとゲームに没頭し、物事を順に追って行くことが苦手のように感じる。親が子どもに本や新聞をよく読むように指導すべきである。

親がもっと子どもと会話し、絆づくりに努めるべきである。ましてや、親の子どもに対する暴力や児童虐待は許せない。

青少年がどれだけ健全に育つかは、どれだけ親に愛されて育ったかだと思う。働くお母さんが増え、子どもが寂しい思いをしていないか心配である。

家庭が余裕を持って子どもと接することができる環境づくりが大切。ワークライフバランスの推進が必要だと思う。

核家族化の影響もあり、親の役割を果たせない人や役割を分かっていない人が増えていると思う。青少年が健全でないのは、その上の世代の人間が健全でないからである。

青少年の健全育成のためには、その親・家族に対する支援が必要だと思う。核家族化が進み、子どもだけでなく親の世代も孤立化しているような気がする。

家庭のしつけは、行政が立ち入ることが難しい面もあるが、ボランティアの力を借りて実施することは可能である。幼児の親を対象にしつけ出前講座を開催したらどうだろうか。

青少年が健全に育つためには、家庭環境がよくないといけない。問題のある家庭には、家庭訪問を積極的に行いサポートすべきだと思う。

子どもにどのように接してよいか分からない親の相談窓口として、社会福祉事務所より身近に相談できる場所があるとよい。

収入があるのに給食費や授業料を支払わない親や、モンスターペアレンツに対しては、毅然とした対応がなされるべきである。

## (2) 学校・教育について

日本の将来を考えると発展途上国の人件費の安さに対抗できるような産業を支える優秀な人材を多く育てなければならないと思う。青少年全体のレベルアップが必要である。

ゆとり教育により、学力が低下しているのではないかと思う。もう少しきちんとした教育をしてほしい。

家庭環境に恵まれていない子どももいるので、学校教育において、健全な情緒を育てる体験型の学習を増やして欲しい。登山、農業体験、会社見学、老人施設訪問、観劇、美術館見学など、いろいろな年代の人と交流する機会を持てば、社会性豊かな大人になる助けになると思う。

テレビゲームの影響が、外で遊ぶ子どもを見かけることが少なくなった。子ども同士が遊ぶ機会を学校が企画することが必要である。

小、中、高校の夏休みの課題として、各地の社会福祉協議会等でボランティア体験をして欲しい。また、その体験発表の時間も学校でとるようにして欲しい。

運動会や授業などで、順位を平等化することは避けるべきである。全てを平等化すると、社会に出てから挫折感や劣等感を自分で乗り越える方法が身に付かないと思う。

教師の教育に力をいれて欲しい。

青少年のメンタルヘルス対策、生徒の非行防止対策と安全対策を支えるスクールサポーター制度の充実が必要である。

### (3) 地域社会について

学校以外での居場所が大切だと思う。子どもたちが集まりレクリエーションを楽しんだり、大人と一緒に学べるような機会を地域につくっていかないといけないと思う。

私が子どもの頃は、先輩に怒られたり褒められたりしながら野球だけでなく、チームワークの大切さを学んだものだが、今の子どもは、皆と一緒に外で遊ぶ習慣がなくなっている。スポーツが苦手な子どもでも参加できる子ども会活動やサークル活動により、子どもの長所を引き出してあげることが大事だと思う。

様々な年代の人と一緒に楽しめるようなふれあいの機会が少ない。小学校の運動会で、大人や小さな子どもと話すことは、緊張したものの、刺激があり楽しかった。こういう経験が社会に出てからの順応能力や、異なる意見を尊重する心を育くむのに役立つと思う。

大都市圏以外では、子どもの活動範囲内に交流する場が少ないと思う。青少年育成のレベルに地域格差が出ないように、行政だけでなく、民間非営利団体なども利用して格差の解消を図るべきである。

青少年が参画できる地域活動（町内会、こども会、町内スポーツ少年団等）を強化（企画・予算補助）したい。

自分が住んでいる地域は近所づきあいが盛んで、どこの子かほとんど分かる状態である。親どうしが仲良くなることで、子どもが思春期を迎え難しい年頃になったときでも、家族以外の大人が相談を受けることができる環境をつくってあげられたらよいと思う。

中高年の経験を語り聞かせる「生涯学習」を充実させるのがよいと思う。

年少者や弱者に対して、絶えず声かけできるような地域社会でありたい。また、働くことに対する考え方を早い時期から機会をとらえて話していくことも必要である。

### (4) 家庭・学校・地域の連携について

学校・家庭・地域の連携により、青少年が活躍する場をつくとともに、その活動を継続・発展させながら、青少年と大人が接する機会を増やしていくよう工夫することが必要だと思う。

青少年の健全育成には、幼児期、学童期の家庭・集団生活の充実が欠かせない。それにより思春期、青年期に自立へと進んでいけると思う。幼児期・学童期の子ども - 家庭 - 社会をつなぐような活動、講習会などを推進すべきだと思う。

電車内で座り込みや、まわりの迷惑を考えない行いなどモラルが損なわれている。家庭、学校、地域がもっと連携して道徳教育に力を入れるべきである。

問題のある家庭には、地域全体で支援していけるような体制づくりが必要である。

小さな非行や犯罪も容認せず、早い段階で非行の芽をつみとるよう社会全体で対応していきたい。

## (5) 成育環境について

青少年に悪影響を与える本やDVD・ゲーム・インターネットの取締りをもっと強化すべきである。

最近インターネットやコンビニの雑誌などで青少年によくない情報が簡単に入手できるようになっており、その対策が必要である。

薬物・アダルトなど有害情報から青少年を守るため、IT教育の強化と厳しいネット規制を望む。また、モラルのない大人から性被害に合わないよう保護・取締りに積極的に取り組んで欲しい。

スーパーマーケット、コンビニの24時間営業はいらぬ。眠らない街は非行を助長させていると思う。

携帯電話の学校への持ち込み規制や使用禁止を検討してはどうか。

携帯電話のように表情を見ないで話をしていただけでは、やさしい感情・感性は育たない。子どもの学習時間減少や生活習慣の乱れ、学校裏サイトなどでないじめ、有害サイトの問題もある。料金が自分で払えない高校生以下の子どもは、持つこと自体制限する必要があると思うのだが。

「文句を言った者が勝ち」という社会風潮が健全な青少年育成をはばんでいる一因である。

## (6) 社会情勢について

子供は失敗しながら成長するもの。やり直し（更正）ができない、認めない社会は不安定になる。生活、学業、家庭など失敗してうまくいかなかった子どもへの支援が大切である。

将来の夢や希望が持てなくなっている青少年が多いと思う。学業成績や学歴を編重する社会を変える必要がある。

青少年の健全育成を考える前に、「青少年が未来に夢と希望を持てるような社会をつくること」を大人が自覚して努力すべきだと思う。

健全に育っている子どもたちも今の社会情勢が続けば夢を叶えられず、挫折を味わう可能性がある。少子高齢化社会の中で大切な子どもたちを切り捨てないように目を向けるとともに、子どもたちが夢を持てる社会が必要である。

家庭で子どもと対話できるように、親の労働環境を整える必要がある。労働基準法を無視した長時間労働は取締り、残業で稼ぐということをしなくてもよい社会が必要である。

今の世の中は物があふれ、教育の場（塾等）が増え、子育てにお金がかかりすぎる。そのため、母親も働き、家にいないが増え、悪循環を引き起こしていると思う。

教育現場に携わる教師や職員が、悪いことは悪いとはっきりと言える社会的環境の整備が必要であると思う。

## (7) 大人の対応、大人社会について

青少年のモラルが低下しているのは大人自身の行動が反映されているものだと思う。大人から教育すべきである。

子ども達は大人をよく見ている。私たち大人がしっかりとした見本を見せることがまず一番大切なのではないかと思う。

青少年の問題行動ばかりに目をむけるのではなく、ひとりひとりの素敵なおところを伸ばしていく取組をすると、不健全な部分が健全へと向かっていくと思う。

大人がもっと積極的に良いことは褒める、悪いことは叱るという事が出来れば良いと思う。今の大人は子どもに甘い気がする。

公衆の集まる場所での傍若無人な振る舞いなど、横着というよりルールを知らないのだと感ずることが多い。ルール違反の子どもを見かけたら積極的に声を掛け注意することが大切である。

学校でつまずきがあったとしても、成長過程ととらえ、大人が長い目で見守ってやりたい。雇用も切るような扱いではなく、大事に人を育てていくべきである。

昔は社会全体の懐が深く、厳しさと優しさのメリハリがあった様に思う。青少年の健全育成は、詰まるところ、大人社会の真面目さと懐の深さを再構築することではないだろうか。

## (8) 青少年活動について

芸文センターなどで、良質で人気のある劇を青少年向けに安く見る機会を提供できるとよいと思う。

反抗期の青少年は、大人が口出ししても嫌がるだけだと思う。祭や運動会等に参加を呼びかけて活躍の場をつくってあげ、自己有用感を持ってもらうことが青少年の前向きなやる気につながっていくと思う。

大人とのスポーツを通しての交流により、コミュニケーションをはかり、視野を広げたり、関係づくりを学ぶべきだと思う。

青少年が自由に意見交換でき、かつ、進んで集まれる場があれば、友人のみならず、同年代の人たちがどのような考えや悩みを抱えているかが分かり、その中でお互いに力になれるようなこともあるのではないかと思う。

青少年には、お金以上に大事なものがあることを知って欲しい。そのためには、地域のNPO、ボランティア団体での体験が必要である。

## (9) 行政への要望、行政の役割について

職場体験やアルバイト体験などを県が斡旋し、社会人になったときの自分を想像できるような体験をさせる。自分がしたいことや自分に足りないもの、自分とは異なる価値観があることに気づくことができると思う。

青少年が参加できる職業訓練所へ支援を行うとよい。

家庭環境をよりよくすることが先決だと思う。行政は子育てなどに関して気軽に相談できる場を積極的に設けたりするなど対策が必要である。また、そのような取組を広く知らせることも重要である。

学童保育について小3までの保育を5年生ぐらいまで引き上げて欲しい。安心して働ける環境が整備されることを望みたい。

青少年の海外派遣や交流は、一部の者だけが対象となるものであまりよくないと思う。むしろ多くの青少年が参加できる事業を拡充していくべきである。

メディアに登場するような成功者や立ち直った人の話を目や耳にする機会（冊子・本・講演会・授業）を提供し、自分達にも未来があることを実感させるような事業を県に期待する。

行政が限られた資源を有効活用するためには、対象を絞り込むべきである。今は、普通の青少年 非行型の青少年 自立に困難を抱える青年のうち、どのタイプに重点対応するのかがはっきりしていない。また、対症療法的な政策よりも、もっと予防的な対策（「お金の教育」など）にも力を注いで欲しい。

青少年問題には、携帯のブログやサイトの問題、親の収入による教育格差、学校にいる外国人の子どもに対する支援、派遣切り、ニートなど多様な問題があり、個人では限界がある。行政や団体の協力・支援が必要だと思う。

経済力の格差がそのまま家庭環境の格差となり、悪循環をおこしているように思う。子どもや若者が希望すれば、安心して進学や就業できるような社会をつくるため、県のお金の使い道を考えて欲しい。

働く場所がない若者が大勢いる。働けば収入を得、生活も健全になると思う。減税や働く場所の提供をお願いする。

青少年の育成は社会の課題である。今の経済状態では勉強したい子どもたちやその親が苦労している。優秀な子だけではなく、人物本位の評価で援助して欲しい。

## (10) その他

自殺、孤独死、殺人事件が多い世の中、“人の命”について考える機会がもっとあるとよい。

時代の流れが早すぎ、子どもの情報量に親がついていけない。物事の善悪をはっきりさせて、人様に迷惑をかけないように指導して行くことから始めたらどうか。

ニートやひきこもりなど、うちに抱え込むタイプの青少年への支援を強化すべきだと思う。

不登校の青少年が通えるフリースクールなど、彼らの居場所づくりが急務だと思う。

大人になっても「いじめ」の後遺症は残る。いじめ防止が重要である。

子どもたちは勉強などのストレスを抱えていて、いじめや不登校問題が起きている。カウンセラーに手伝ってもらい、自分の感情を表現する気持ちよさを味わってもらえば、優しい気持ちが出てくると思う。

金をかければ青少年問題がすべて解決するものではない。日本の財産である60才以上の壮年者の知恵を有効に活用すべきである。

今の青少年は、心が弱いと言われている。しかし、弱いからこそ優しさを持っていると思う。優しさを生かせるボランティアや国際交流活動を積極的に紹介し、弱さが強さにかわる瞬間を体験して欲しい。

青少年には生きる目的をしっかりと持ってもらいたい。そのためにも、趣味や特技を持たせるよう支援して欲しい。

「今の青少年をめぐる問題は厳しい状況になっている」という前提に、甚だ疑問を感じる。昔と比べて、悪くなったという実感はなく、今の子どもたちの方が、昔に比べれば、ずっとよいかも知れない。

思いやりのある若者にもときどきめぐりあう。私のまわりの若者は意外と立派である。

質問と回答 (単位...「総数」:人、「総数」以外:%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

I 愛知県の行財政改革

1 行財政改革への関心

問1 県では、現行の「あいち行革大綱2005」を含め、数次にわたる行革大綱に基づき、事務事業の見直し、組織・機構の再編、職員定数の削減など、不断の行財政改革の取組を進めてきました。あなたは、県がこうした行財政改革に取り組んでいることをご存じでしたか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 よく知っていた	2.6	4.9	0.4	2.0	3.2	2.6	(-)	2.9	1.2	1.2	5.5
2 ある程度知っていた	30.4	31.3	29.5	30.5	34.4	25.3	21.9	13.3	25.6	36.5	46.2
3 あまり知らなかった	40.9	40.3	41.4	47.7	36.0	40.3	37.0	50.5	43.0	36.5	37.2
4 まったく知らなかった	25.5	22.2	28.7	19.2	25.9	31.2	41.1	31.4	29.1	25.9	11.0
無回答	0.6	1.2	0.0	0.7	0.5	0.6	0.0	1.9	1.2	0.0	0.0

2 これまでの取組の評価

問2 県では、「あいち行革大綱2005」において、以下のような取組実績を上げてきました。あなたは、こうした県の行財政改革の取組状況について、どう思われますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 よく努力している	12.3	11.1	13.5	8.6	16.4	11.0	12.3	13.3	11.6	8.2	14.5
2 まあまあ努力している	46.2	40.3	51.8	45.0	43.4	50.6	41.1	43.8	55.8	49.4	42.8
3 もう少し努力すべきである	27.1	27.6	26.7	30.5	29.6	20.8	31.5	31.4	19.8	25.9	26.9
4 もっと努力すべきである	13.8	20.2	7.6	14.6	10.6	16.9	13.7	10.5	12.8	15.3	15.9
無回答	0.6	0.8	0.4	1.3	0.0	0.6	1.4	1.0	0.0	1.2	0.0

### 3 県の財政状況

問3 県が積極的に行財政改革の取組を進めているのは、財政が依然として大変厳しい状況にあるためです。県の財政（21年度当初予算）を1か月の家計に例えると次のような状況になりますが、あなたは、県の財政がこのような状況になっていることをご存知でしたか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 よく知っていた	3.8	4.9	2.8	4.0	4.2	3.2	1.4	1.9	3.5	8.2	4.1
2 だいたい知っていたし、想像の範囲内である	28.3	37.0	19.9	25.2	29.1	30.5	30.1	24.8	22.1	29.4	33.1
3 厳しいと聞いたことはあるが、ここまでとは知らなかった	58.7	47.3	69.7	59.6	60.3	55.8	63.0	64.8	64.0	50.6	53.8
4 厳しいと聞いたこともないし、ほとんど知らなかった	9.1	10.7	7.6	11.3	6.3	10.4	5.5	8.6	10.5	11.8	9.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 4 行政サービスへの影響

問4 厳しい財政状況を踏まえ、県では、これからも一層積極的に行財政改革の取組を進めていかなければならないと考えております。あなたは、県はどのように行財政改革を進めていくべきと思われますか。もっとも近いものを選んでください。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 次世代に負担を先送りしないためにも、徹底した行財政改革を行うべきであり、そのために県の行政サービスがある程度低下することはやむを得ない	27.9	30.5	25.5	29.8	28.0	26.0	24.7	38.1	19.8	17.6	33.1
2 行政経費節減などの効果が期待できれば、たとえ県の行政サービスが一時的に低下することになっても、行財政改革を進めるべきである	35.6	32.9	38.2	33.8	38.1	34.4	35.6	24.8	38.4	47.1	35.2
3 現在の県の行政サービスが低下しない範囲で、行財政改革を行うべきである	28.3	24.7	31.9	27.2	27.0	31.2	31.5	29.5	31.4	28.2	24.1
4 県の行政サービスが低下するくらいなら、当面財政が悪化しても、行財政改革は行わないほうがよい	0.4	0.0	0.8	0.7	0.0	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7
5 その他	7.7	11.9	3.6	8.6	6.9	7.8	6.8	7.6	10.5	7.1	6.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 5 力を入れていくべき行政分野

問5 県では、行財政改革を進めながらも、県政の各分野において、県民ニーズや地域課題を踏まえた取組を推進していかなければならないと考えております。あなたは、県は今後どのような行政分野に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から選んでください。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 社会福祉	40.3	34.6	45.8	38.4	41.8	40.3	42.5	41.9	39.5	48.2	33.8
2 少子・高齢化対策	56.7	53.9	59.4	58.9	59.3	51.3	60.3	58.1	54.7	54.1	56.6
3 保健医療	40.9	37.9	43.8	47.0	33.3	44.2	34.2	36.2	36.0	49.4	45.5
4 地震・防災対策	17.0	16.0	17.9	17.9	14.3	19.5	24.7	12.4	19.8	14.1	16.6
5 治安対策	20.2	25.5	15.1	22.5	21.2	16.9	13.7	23.8	19.8	22.4	20.0
6 教育・生涯学習	23.1	24.3	21.9	20.5	20.6	28.6	24.7	25.7	24.4	20.0	21.4
7 社会活動・男女共同参画	2.0	2.1	2.0	1.3	2.6	1.9	2.7	1.9	0.0	1.2	3.4
8 科学技術・情報化	3.6	4.9	2.4	4.0	4.2	2.6	1.4	3.8	3.5	5.9	3.4
9 商工業	3.0	4.1	2.0	2.6	4.2	1.9	2.7	2.9	1.2	5.9	2.8
10 農林水産業	13.2	13.2	13.1	11.9	12.7	14.9	5.5	14.3	8.1	11.8	20.0
11 雇用対策	36.0	30.0	41.8	29.8	40.2	37.0	45.2	32.4	38.4	35.3	33.1
12 環境対策	12.1	11.1	13.1	11.3	12.2	13.0	12.3	9.5	16.3	10.6	12.4
13 国際交流	1.6	2.5	0.8	0.7	2.6	1.3	4.1	1.0	1.2	1.2	1.4
14 観光対策	4.7	7.0	2.4	4.0	5.8	3.9	5.5	3.8	3.5	4.7	5.5
15 文化芸術	1.6	1.2	2.0	0.7	2.1	1.9	1.4	3.8	0.0	1.2	1.4
16 交通・航空対策・道路整備	6.7	9.5	4.0	6.0	7.4	6.5	5.5	10.5	9.3	3.5	4.8
17 住環境（住宅・公園・上下水道など）	9.3	11.5	7.2	11.9	9.5	6.5	8.2	10.5	12.8	3.5	10.3
18 その他	1.4	2.9	0.0	1.3	1.1	1.9	0.0	1.9	1.2	2.4	1.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 6 重点を置くべき取組事項

問6 あなたは、県はどのような点に重点を置いて行財政改革に取り組むべきと思われますか。

(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 民間に任せられることができる事務事業の委託や民間への移行を進める	41.3	45.7	37.1	43.7	42.9	37.0	37.0	52.4	36.0	42.4	37.9
2 NPOや民間団体など県民との協働を進める	11.3	9.9	12.7	7.9	14.8	10.4	15.1	9.5	12.8	9.4	11.0
3 市町村の自主性・自律性が高まるよう県の事務権限の移譲や必要な支援を行う	17.8	18.1	17.5	11.9	21.7	18.8	12.3	12.4	15.1	17.6	26.2
4 県関係団体や第三セクターの統廃合や経営改善を進める	28.1	32.5	23.9	28.5	26.5	29.9	16.4	34.3	24.4	34.1	28.3
5 本庁や地方機関の組織の見直しを行う	26.7	25.5	27.9	25.8	24.9	29.9	21.9	30.5	25.6	28.2	26.2
6 引き続き職員数の削減や給与の適正な管理に努める	39.1	40.3	37.8	42.4	33.9	42.2	43.8	37.1	39.5	38.8	37.9
7 職員研修の充実、多様な任用形態の検討など人材の育成と活用を図る	6.3	5.3	7.2	4.6	7.9	5.8	6.8	1.9	8.1	8.2	6.9
8 県民のニーズに応える、よりよい施策・事業が実現するよう、県の政策立案機能の強化を図る	13.0	12.3	13.5	11.9	13.8	13.0	12.3	11.4	12.8	10.6	15.9
9 行政評価制度の活用などにより県の仕事を徹底的に見直し、簡素化・効率化する	36.6	35.0	38.2	41.1	36.0	33.1	23.3	29.5	36.0	41.2	46.2
10 公の施設の統廃合、民間移譲や指定管理者制度を活用した管理運営の効率化を進める	20.6	24.7	16.7	23.2	20.1	18.8	17.8	21.0	26.7	22.4	17.2
11 事務能率を向上させ、利便性、迅速性など県民サービスの向上を図る	21.3	16.9	25.5	21.9	18.5	24.0	37.0	23.8	24.4	14.1	13.8
12 様々な未利用資産の売却、県有知的財産権の実施契約公募など、自主財源の確保に努める	22.3	18.1	26.3	21.9	22.8	22.1	30.1	18.1	24.4	21.2	20.7
13 その他	4.5	6.2	2.8	4.0	6.3	2.6	2.7	5.7	7.0	5.9	2.1
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

## 7 県職員のイメージ

問7 私たち県職員は、県民の皆様の福祉向上と県政の発展のため、それぞれの持ち場において、全力で仕事に取り組んでいると考えております。あなたは、県職員の日頃の仕事ぶりについて、どのようなイメージをもっておられますか。もっとも近いものを選んでください。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 県政の発展や県民のためによく努力している	1.4	1.2	1.6	1.3	1.6	1.3	1.4	0.0	2.3	1.2	2.1
2 不満を感じる点もあるが、総じて頑張っているのではないか	9.9	11.1	8.8	11.9	9.0	9.1	8.2	7.6	5.8	11.8	13.8
3 民間企業などに比べると楽なように見える	36.8	36.2	37.5	37.7	36.0	37.0	45.2	32.4	26.7	43.5	37.9
4 職員や職場によって差があるのではないか	38.3	34.6	41.8	35.8	40.2	38.3	34.2	45.7	45.3	35.3	32.4
5 県や県職員についてよく知らない	9.7	11.5	8.0	9.3	9.5	10.4	8.2	10.5	14.0	3.5	11.0
6 その他	3.4	5.3	1.6	4.0	3.2	3.2	1.4	3.8	5.8	4.7	2.1
無回答	0.4	0.0	0.8	0.0	0.5	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7

## 8 県職員に求められる能力・資質

問8 あなたは、県職員にはどのような能力や資質が求められていると感じますか。特に重要だと思うものを次の中から選んでください。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 責任感・使命感	59.9	57.6	62.2	58.9	61.4	59.1	67.1	49.5	59.3	61.2	63.4
2 倫理観	23.3	23.9	22.7	22.5	22.8	24.7	24.7	27.6	26.7	21.2	18.6
3 公平性・中立性	29.6	26.7	32.3	30.5	28.0	30.5	24.7	23.8	31.4	27.1	36.6
4 正確性	14.0	6.6	21.1	13.2	15.9	12.3	19.2	19.0	7.0	12.9	12.4
5 柔軟性	24.9	25.1	24.7	23.2	27.0	24.0	28.8	35.2	30.2	22.4	13.8
6 コスト意識・経営センス	47.6	55.6	39.8	47.0	49.2	46.1	45.2	53.3	48.8	42.4	46.9
7 企画立案能力・政策形成能力	15.0	13.6	16.3	14.6	14.8	15.6	11.0	5.7	7.0	18.8	26.2
8 専門能力	12.8	8.6	16.7	16.6	11.6	10.4	16.4	11.4	10.5	12.9	13.1
9 説明能力	9.3	8.6	10.0	9.9	8.5	9.7	11.0	10.5	10.5	9.4	6.9
10 スピード感覚	16.6	19.8	13.5	18.5	18.0	13.0	11.0	19.0	17.4	17.6	16.6
11 チャレンジ精神	12.8	15.6	10.0	9.9	12.7	15.6	9.6	10.5	9.3	14.1	17.2
12 サービス精神	24.5	27.2	21.9	22.5	23.8	27.3	23.3	23.8	29.1	30.6	19.3
13 その他	2.6	2.5	2.8	4.0	2.6	1.3	2.7	1.9	2.3	3.5	2.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 青少年の健全育成

### 1 現在の青少年像

問11 あなたは、現在の青少年の考え方や行動を身近に見て、優れている面をあげるとすればどのようなことだと思いますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 自分の考えをはっきり言える	16.2	18.5	13.9	14.6	15.3	18.8	12.3	11.4	14.0	17.6	22.1
2 自由奔放に振る舞える	35.0	39.1	31.1	29.8	38.1	36.4	30.1	33.3	30.2	44.7	35.9
3 実行力や行動力がある	6.1	7.0	5.2	6.6	4.8	7.1	8.2	1.9	3.5	5.9	9.7
4 積極的でものおじしない	13.2	11.9	14.3	15.2	12.7	11.7	8.2	11.4	15.1	14.1	15.2
5 開放的で明るい	12.8	10.3	15.1	16.6	11.1	11.0	11.0	14.3	9.3	18.8	11.0
6 社交性や協調性がある	6.7	7.8	5.6	4.6	6.9	8.4	12.3	5.7	7.0	4.7	5.5
7 個性や独自性を大事にしている	33.2	30.9	35.5	33.1	30.7	36.4	28.8	33.3	37.2	42.4	27.6
8 現実的である	38.3	35.0	41.4	39.7	37.0	38.3	32.9	25.7	37.2	41.2	49.0
9 感性が豊かである	3.2	3.3	3.2	4.0	2.1	3.9	6.8	2.9	2.3	2.4	2.8
10 情報機器などへの対応が早い	58.5	53.9	62.9	57.0	61.4	56.5	58.9	43.8	47.7	65.9	71.0
11 思いやりやいたわりの心がある	2.2	2.9	1.6	2.0	2.6	1.9	4.1	1.0	1.2	2.4	2.8
12 あいさつなど基本的な生活習慣を身につけている	3.4	2.9	4.0	2.6	4.8	2.6	2.7	4.8	2.3	2.4	4.1
13 公共心・社会規範がある	1.2	2.1	0.4	0.0	1.6	1.9	2.7	1.0	2.3	0.0	0.7
14 感謝の気持ちを持っている	1.0	1.2	0.8	2.0	1.1	0.0	1.4	1.0	2.3	0.0	0.7
15 その他	3.6	4.5	2.8	4.6	2.6	3.9	2.7	5.7	4.7	1.2	3.4
16 特にない	6.3	8.6	4.0	7.3	6.3	5.2	8.2	11.4	7.0	3.5	2.8
17 わからない	3.2	4.5	2.0	2.6	4.8	1.9	0.0	3.8	4.7	2.4	4.1
無回答	0.4	0.4	0.4	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	1.2	0.0	0.7

## 2 青少年とのかかわり方

問12 あなたは、地域の青少年とどのようなかかわり方をしていますか。次の項目ごとに、点線内の選択肢の番号で回答してください。(回答はそれぞれ一つ)

### (1) よいことをしたらほめている

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 そうしている	34.8	31.7	37.8	27.2	43.4	31.8	30.1	25.7	31.4	36.5	44.8
2 多少そうしている	28.1	29.2	27.1	35.1	20.6	30.5	21.9	29.5	33.7	23.5	29.7
3 どちらともいえない	14.8	16.9	12.7	13.2	15.9	14.9	9.6	16.2	16.3	23.5	10.3
4 あまりそうしていない	11.9	11.1	12.7	15.2	9.5	11.7	13.7	12.4	12.8	11.8	10.3
5 そうしていない	9.3	9.5	9.2	8.6	9.5	9.7	24.7	16.2	5.8	4.7	1.4
無回答	1.0	1.6	0.4	0.7	1.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4

### (2) 迷惑行為に対しては注意している

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 そうしている	8.9	12.3	5.6	8.6	9.5	8.4	2.7	4.8	10.5	5.9	15.9
2 多少そうしている	25.1	27.2	23.1	24.5	24.3	26.6	15.1	23.8	18.6	29.4	32.4
3 どちらともいえない	16.8	16.5	17.1	15.2	18.5	16.2	16.4	14.3	20.9	17.6	15.9
4 あまりそうしていない	25.5	21.0	29.9	26.5	25.9	24.0	24.7	29.5	23.3	29.4	22.1
5 そうしていない	21.9	20.6	23.1	23.2	20.1	22.7	41.1	26.7	26.7	17.6	8.3
無回答	1.8	2.5	1.2	2.0	1.6	1.9	0.0	1.0	0.0	0.0	5.5

### (3) あいさつをかわしている

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 そうしている	41.7	36.6	46.6	41.7	40.2	43.5	23.3	37.1	37.2	45.9	54.5
2 多少そうしている	31.4	30.9	31.9	30.5	33.3	29.9	37.0	25.7	37.2	30.6	29.7
3 どちらともいえない	11.5	15.6	7.6	12.6	11.6	10.4	6.8	16.2	14.0	14.1	7.6
4 あまりそうしていない	8.1	7.4	8.8	8.6	7.9	7.8	17.8	12.4	4.7	5.9	3.4
5 そうしていない	6.1	7.4	4.8	6.0	5.8	6.5	15.1	7.6	7.0	2.4	2.1
無回答	1.2	2.1	0.4	0.7	1.1	1.9	0.0	1.0	0.0	1.2	2.8

(4) スポーツ活動や地域活動での行事に協力している

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 そうしている	11.5	13.2	10.0	6.6	13.2	14.3	8.2	8.6	17.4	11.8	11.7
2 多少そうしている	20.9	21.4	20.3	15.2	24.9	21.4	20.5	21.9	26.7	12.9	21.4
3 どちらともいえない	15.0	15.6	14.3	15.9	11.6	18.2	8.2	12.4	16.3	23.5	14.5
4 あまりそうしていない	20.9	20.2	21.5	21.9	19.0	22.1	19.2	19.0	11.6	24.7	26.2
5 そうしていない	29.4	26.3	32.3	37.7	29.6	20.8	43.8	37.1	26.7	25.9	20.0
無回答	2.4	3.3	1.6	2.6	1.6	3.2	0.0	1.0	1.2	1.2	6.2

(5) 社会のルールを守り、手本を示している

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 そうしている	30.2	30.0	30.3	23.2	35.4	30.5	21.9	23.8	32.6	41.2	31.0
2 多少そうしている	36.8	33.7	39.8	40.4	33.3	37.7	32.9	39.0	33.7	28.2	44.1
3 どちらともいえない	18.4	16.5	20.3	21.9	18.5	14.9	28.8	21.0	19.8	20.0	9.7
4 あまりそうしていない	7.3	10.7	4.0	5.3	7.9	8.4	9.6	10.5	7.0	5.9	4.8
5 そうしていない	4.9	5.8	4.0	7.3	3.2	4.5	6.8	4.8	5.8	3.5	4.1
無回答	2.4	3.3	1.6	2.0	1.6	3.9	0.0	1.0	1.2	1.2	6.2

### 3 青少年の非行等問題行動の防止

問13 青少年の非行等問題行動にはさまざまな要因がありますが、非行等を防止するためにはどのようなことが重要だと思いますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 家庭でのしつけの強化、親子のふれあいの充実	78.7	77.0	80.5	78.1	81.0	76.6	79.5	82.9	75.6	76.5	78.6
2 地域ぐるみの青少年育成、地域の教育機能の強化	33.2	31.3	35.1	29.1	36.0	33.8	41.1	42.9	32.6	30.6	24.1
3 地域における有害環境の浄化	16.4	14.4	18.3	13.9	18.5	16.2	15.1	14.3	16.3	16.5	18.6
4 学校における社会道徳教育の充実	30.6	35.8	25.5	31.1	30.7	29.9	23.3	29.5	22.1	29.4	40.7
5 子ども会、青年団などの青少年活動の充実	12.8	16.0	9.6	11.9	13.8	12.3	12.3	10.5	10.5	10.6	17.2
6 公的機関での補導・相談体制の充実	11.7	11.5	12.0	11.9	12.7	10.4	4.1	10.5	11.6	15.3	14.5
7 非行に対する罰則の強化	22.9	25.1	20.7	27.2	20.1	22.1	30.1	21.9	22.1	27.1	17.9
8 暴力や性を興味本位で扱った雑誌、インターネットなどの規制の強化	33.8	26.7	40.6	35.8	32.3	33.8	28.8	24.8	32.6	38.8	40.7
9 学業成績や学歴を偏重する社会的風潮の変革	19.0	18.9	19.1	21.2	18.5	17.5	24.7	18.1	16.3	16.5	20.0
10 金銭優先などの社会的風潮の変革	20.9	19.8	21.9	19.9	20.6	22.1	12.3	25.7	24.4	24.7	17.2
11 その他	4.9	5.3	4.4	6.0	2.1	7.1	8.2	1.9	9.3	3.5	3.4
12 特にない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13 わからない	0.4	0.4	0.4	0.0	0.5	0.6	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

#### 4 行政への要望

問14 青少年の自立をはぐくみ、健全育成を進めていくために、行政は特に何を推進すべきだと思いますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	494	243	251	151	189	154	73	105	86	85	145
1 青少年が地域で気軽に集えたり、活動できる場を増やす	31.0	29.2	32.7	28.5	34.4	29.2	28.8	31.4	30.2	28.2	33.8
2 青少年を地域づくり事業やいろいろな計画づくりに積極的に参加させる	27.7	30.9	24.7	28.5	27.0	27.9	28.8	18.1	22.1	32.9	34.5
3 青少年団体やNPO団体への支援を充実する	5.3	6.6	4.0	6.0	4.2	5.8	5.5	3.8	7.0	7.1	4.1
4 研修会や講習会を実施し、青少年活動の指導者を養成する	10.1	13.6	6.8	9.3	10.1	11.0	8.2	12.4	9.3	10.6	9.7
5 青少年を対象とした文化、芸術を振興させる	11.3	9.5	13.1	13.2	9.5	11.7	9.6	6.7	10.5	11.8	15.9
6 教養や趣味を広げるための青少年教室や講座を充実する	12.8	12.8	12.7	12.6	14.8	10.4	12.3	16.2	9.3	10.6	13.8
7 青少年を海外へ派遣したり、海外から青少年を招くなど国際交流を推進する	8.1	9.5	6.8	7.9	9.5	6.5	6.8	8.6	10.5	7.1	7.6
8 親子のきずなを深める取組を充実する	31.2	31.3	31.1	27.8	32.8	32.5	27.4	37.1	31.4	27.1	31.0
9 青少年が悩みや不安を気軽に相談できる窓口を充実する	34.2	23.9	44.2	36.4	33.9	32.5	37.0	26.7	34.9	40.0	34.5
10 青少年に悪い影響を与える図書やビデオ、DVDなどの取締まりを強化する	19.8	18.1	21.5	22.5	19.6	17.5	20.5	16.2	12.8	16.5	28.3
11 青少年のシンナー、覚せい剤などの薬物の乱用防止対策を推進する	16.8	14.0	19.5	16.6	12.2	22.7	16.4	18.1	19.8	20.0	12.4
12 非行青少年の補導・保護を強化する	18.8	21.0	16.7	19.9	16.9	20.1	21.9	19.0	17.4	21.2	16.6
13 非行青少年の立ち直り支援策(居場所づくり等)を推進する	16.2	13.2	19.1	17.2	16.9	14.3	16.4	19.0	18.6	18.8	11.0
14 ニート、ひきこもりなど自立に困難を抱える青少年への支援を充実する	20.4	17.7	23.1	17.2	20.6	23.4	27.4	17.1	18.6	21.2	20.0
15 地域活動への積極的な参加機運を醸成する運動など、啓発活動を積極的に展開する	11.5	16.5	6.8	9.3	12.7	12.3	6.8	14.3	9.3	9.4	14.5
16 その他	4.9	7.8	2.0	4.6	5.8	3.9	5.5	4.8	10.5	3.5	2.1
17 特にない	1.2	1.6	0.8	2.0	1.1	0.6	1.4	1.0	2.3	1.2	0.7
18 わからない	0.8	0.8	0.8	2.0	0.0	0.6	1.4	1.0	0.0	0.0	1.4
無回答	0.4	0.4	0.4	0.0	0.0	1.3	0.0	1.0	0.0	1.2	0.0

平成21年度第1回県政モニターアンケート報告書

「愛知県の行財政改革」  
「青少年の健全育成」  
平成21年9月発行  
愛知県知事政策局広報広聴課  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話(052)954-6168(ダイヤルイン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

